

第5回 東静岡地区まちづくり協議会

議事次第

日時：令和7年12月22日（月）
10時00分～11時30分
場所：静岡市役所 静岡庁舎
新館17階 171・172会議室

1 開 会

2 前回会議の振り返り 資料1

3 報 告

(1) 東静岡地区まちづくり基本構想の策定・公表 資料2 資料3 資料4

(2) まちづくりに関する取組状況

① 静岡市アリーナ 資料5

② ペデストリアンデッキ 資料6

③ 新たな交通システム 資料7

④ 谷津山の保全・活用 資料8

⑤ 東静岡2号調整池の活用 資料9

⑥ バンダイホビーセンター 資料10

⑦ 新県立中央図書館 資料11 資料12

4 議 事

東静岡地区まちづくり基本計画について 資料13

5 閉 会

第5回 東静岡地区まちづくり協議会 委員名簿

No.	氏名	所属・役職等	専門・役割
1	中村 直保	静岡市自治会連合会 会長	地域代表
2	杉山 輝雄	千代田学区自治会連合会 会長	地域代表
3	柴 多喜男	伝馬町学区自治会連合会 会長	地域代表
4	大木 義文	西豊田学区自治会連合会 会長	地域代表
5	田宮 一彦	東豊田学区自治会連合会 会長	地域代表
6	平井 崇士	東海旅客鉄道株式会社 総合企画本部 企画開発部 担当部長	交通事業者 (JR)
7	池谷 直倫	静岡鉄道株式会社 未来事業創造部 グループ企画課 課長	交通事業者 (静岡鉄道)
8	古居 武司	国土交通省 中部地方整備局 静岡国道事務所 事業対策官	道路管理者 (国道管理者)
9	飯田 将人	静岡中央警察署 交通第一課 課長	交通管理者 (葵区)
10	浦野 雅則	静岡南警察署 交通課 課長	交通管理者 (駿河区)
11	山田 司	静岡県 スポーツ・文化観光部 企画経理課 課長	静岡県 (県有地活用)
12	石川 すみ江	静岡中央子育て支援センター 所長	子ども・子育て
13	西 美有紀	一般社団法人草薙カルテッド コミュニティマネージャー	エリマネ・産学官連携
14	遠藤 新	工学院大学 建築学部 まちづくり学科 教授	学識経験者 (座長)

【代理出席者】
交通課 交通規制係長
村上 聰理

【代理出席者】
共同代表 山本 洋平

事務局	静岡市 都市局 都市計画部 都市計画課
-----	---------------------

第4回東静岡地区まちづくり協議会（令和7年5月22日） 主な意見と対応

■ 「東静岡地区まちづくり基本構想（案）」について

主な意見	対応
<ul style="list-style-type: none"> 現在住んでいる人へのケアも必要ではないか。 基本構想は<u>来訪者がメインになっているように捉えられる。</u> 	<p>⇒ 基本構想では、めざす将来像として「快適で安心できる暮らし」についても記載した。 <u>快適で安心して住み続けられる環境づくりに向かって、引き続き検討していく。</u></p>
<ul style="list-style-type: none"> まちづくりの方針「若者や子どもが、夢や希望を持てるまちづくり」はとても素敵なタイトルである。 一方で<u>具体的な取組のイメージ</u>が思い浮かばなかった。 子供同士の出会いや多くの体験ができる場所になると良いと思う。 	<p>⇒ 科学技術高校などの<u>教育機関</u>と連携しながら、まちづくりを進めたいと考えている。 具体的な取組として、<u>基本計画作成の中でアウトプット</u>ができるよう、引き続き検討していく。</p>
<ul style="list-style-type: none"> 若者が地域に関わるにはハードルがあり、<u>間をつなぐコーディネーター役</u>が必要である。 また、学生としては入りやすく、抜けやすい<u>コミュニティの形</u>が望ましい。 	<p>⇒ 若者・学生が主体的にまちづくりに取り組めるような仕組みを考えていきたい。 <u>産学官民が連携したまちづくりの推進</u>に向けて、引き続き検討していく。</p>
<ul style="list-style-type: none"> 休日は地区内で<u>渋滞が発生しており地域住民の不満</u>も大きい。 取組は進められていることは認識しているが、 引き続き、国道1号を含め<u>交通渋滞の解消</u>に向けた取組を進めてもらいたい。 	<p>⇒ 市と警察が連携して、<u>交通渋滞の解消</u>に向けた信号現示の調整の取組を進めている。 <u>交通分散</u>も合わせて、引き続き取組を検討していく。</p>
<ul style="list-style-type: none"> 交通の観点では交通の全体像を描きつつ、既存のモビリティと連携して、<u>新たなモビリティ</u>がどのような役割を果たすのかを明確にできると良いと思う。 	<p>⇒ 次世代モビリティの導入に合わせた、鉄道の利用促進や、地域に合わせたバス運行の検討など、<u>誰もが移動しやすいまちづくりの実現</u>に向けて、引き続き検討していく。</p>
<ul style="list-style-type: none"> 旧東海道沿いの商業は撤退してしまいほとんど残っていない。 また、昔ながらの農道が残っているなど基盤が弱いこと等の状況を踏まえると、今更<u>用途地域</u>を変更する必要もないと考えている。 	<p>⇒ ペデストリアンデッキ沿線の高度利用を図る一方で、地区内の住環境や工場の立地状況など、<u>地域の実情に配慮した土地利用の検討</u>を進めていく。 地域の皆様の声を丁寧に受け止めながら引き続き検討していく。</p>
<ul style="list-style-type: none"> 地区内の用途地域について、工業系用途地域が指定され工業を営んでいる方もいるが、だいぶ少なくなっているように感じる。 将来的にその方々が継続できるのかなど、<u>将来</u>を見据えて用途の変更を検討してもらいたい。 	

主な意見	対応
<p>・主要プロジェクト「<u>都市計画の見直し</u>」について、具体的な取組として用途地域の変更を特出した整理になっているが、<u>高度地区や地区計画</u>など他の要素も読み取れるように表現を工夫しておいた方が良い。</p>	<p>⇒ 「<u>土地利用規制（都市計画）の見直し</u>」とし、高度地区や地区計画などを含めて、<u>土地の使い方やまちの密度のルールをバランス良く変えていく</u>ことを記載した。</p>
<p>・<u>谷津山</u>は東静岡の資源であり、<u>保全・利活用</u>に向けた積極的な取組を期待している。</p>	<p>⇒ 「<u>里山公園（谷津山）の保全・活用</u>」とし、<u>保全と活用の両面から取組を進めていく</u>。</p>
<p>・主要プロジェクト「<u>里山公園（谷津山）の利活用</u>」について、「<u>保全</u>」の観点も重要なので、付け足した方が良い。</p>	<p>今後、谷津山保全活用方針を策定し、谷津山の環境が保全され、魅力ある森としてこれからの中世代に引き継がれていくよう取り組んでいく。</p>
<p>・基本構想では、これまでの協議会の内容が反映されており、わかりやすく整理されている。一方で情報が多いので、市民に周知することを考えると<u>概要版を整理</u>できると良い。</p>	<p>⇒ 市民にわかりやすく周知できるよう、情報を絞り、<u>概要版を作成・公表</u>した。</p>

東静岡地区まちづくり基本構想

2025年8月
静岡市

目 次

1. はじめに	1
2. まちづくりの状況	4
3. めざす将来像	10
4. まちづくりの5つの方針	14
5. まちづくりの主要プロジェクト	20
6. 役割分担と今後の進め方	28



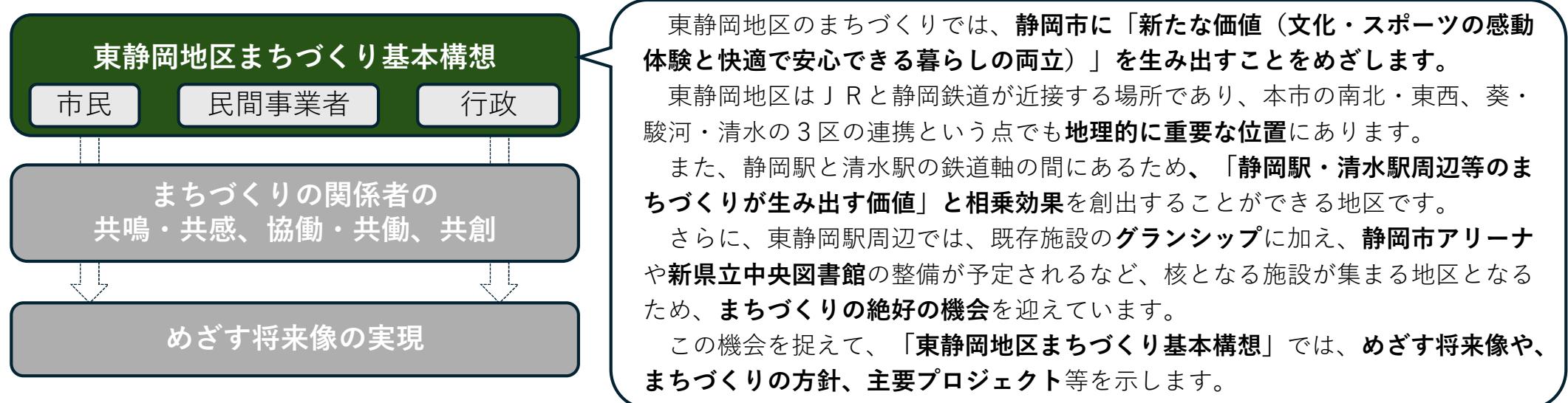
1. はじめに

(1) 「東静岡地区まちづくり基本構想」策定の目的

●市民、民間事業者、行政が共に東静岡地区の将来像を描き、共有し、共創のまちづくりにつなげること

人口減少や地球温暖化といった時代の大きな変化を捉え、20年、30年、その先の未来も楽しく住みやすい東静岡地区にしていくためには、市民、民間事業者、行政など、まちづくりに関わる人達が、地区の将来像を描いて共有し、それに共鳴・共感する人の輪を広げながら協働・共働の取組を実践し、その取組が成功する体験を通して、社会全体による共創のまちづくりへとつなげていくことが重要です。

そのために、まちづくりの関係者が行動するための指針となる「東静岡地区まちづくり基本構想」を策定します。



1. はじめに

(2) 基本構想の構成

基本構想は、東静岡地区のめざす将来像や、その実現に向けたまちづくりの方針、まちづくりの主要プロジェクト、役割分担・今後の進め方等を示すものです。

1. はじめに

2 まちづくりの
状況

3.めざす将来像

4.まちづくりの
5つの方針

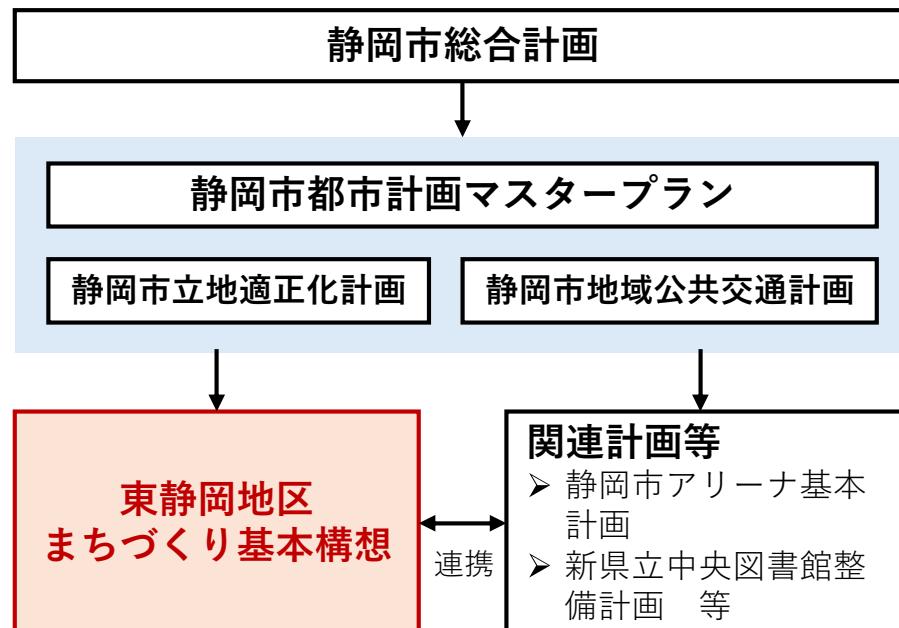
5.まちづくりの
主要プロジェクト

6.役割分担と
今後の進め方

(3) 基本構想の位置づけ

基本構想は、静岡市総合計画や静岡市都市計画マスタープラン、静岡市立地適正化計画等におけるまちづくりの方針を踏まえるとともに、静岡市アリーナ基本計画や新県立中央図書館整備計画等と連携し策定しました。

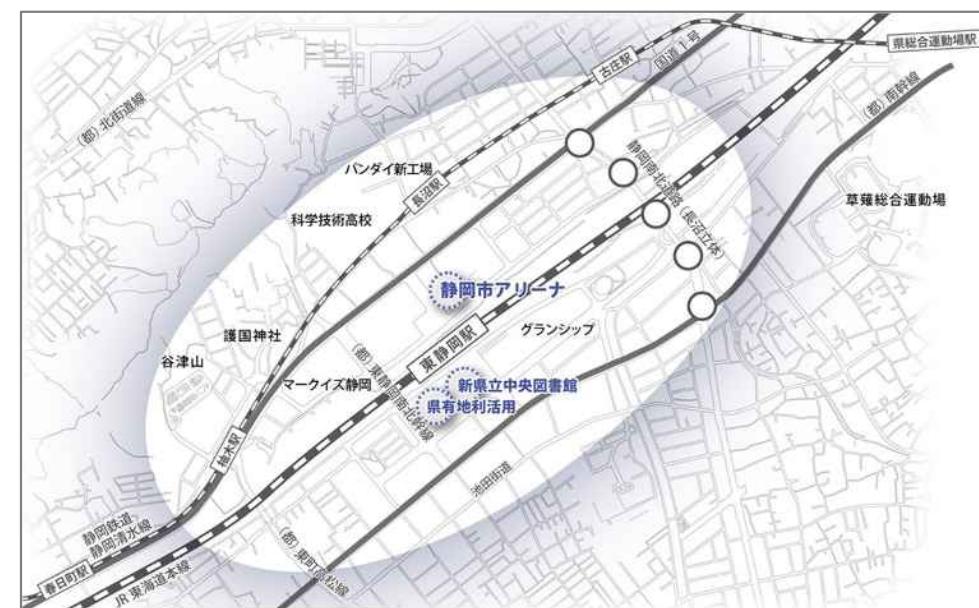
■ 基本構想の位置づけ



(4) 基本構想の対象範囲

基本構想では、都市計画マスタープランにおける都市拠点の範囲や立地適正化計画における都市機能誘導区域を踏まえ、**東静岡駅を中心とした下図に示す範囲を中心とした、広がりのあるエリア**を対象とします。

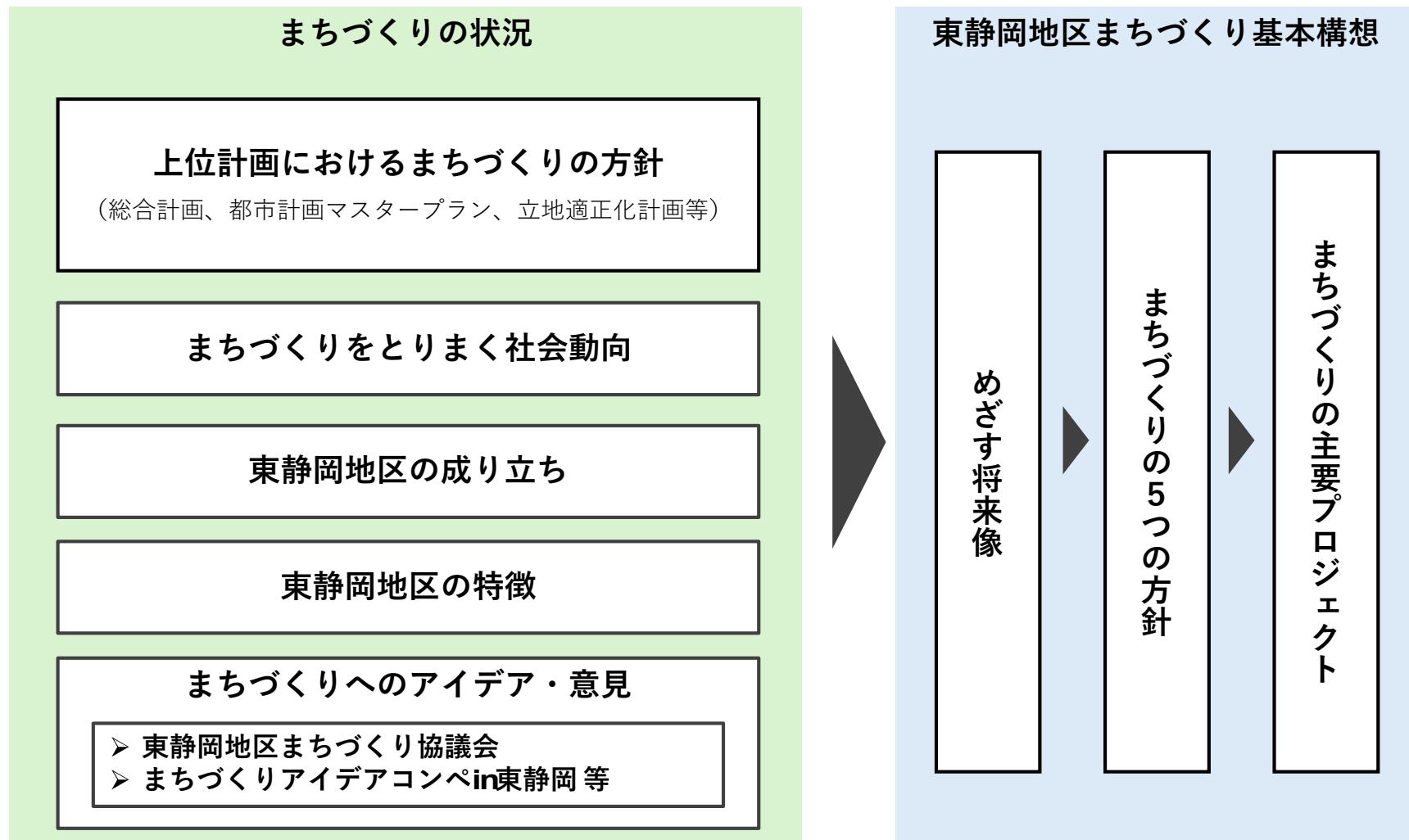
■ 対象範囲の中心となるエリア



1. はじめに

(5) 基本構想の策定の流れ

基本構想におけるめざす将来像やまちづくりの方針等は、上位計画におけるまちづくりの方針や地区の特徴、まちづくり協議会・まちづくりアイデアコンペ等でいただいたアイデア・市民の皆さまの意見等を参考に設定しました。



2. まちづくりの状況

(1) 上位計画におけるまちづくりの方針

上位計画より、市全域から見る東静岡地区の位置付けを以下に整理しました。

＜第4次静岡市総合計画＞

- ・ 東静岡地区は「草薙・東静岡副都心」に位置づけられ、スポーツや文化芸術の集積を活かし、それぞれの地域において賑わいの創出に取り組むこととしています。
 - ・ また、商業、業務、医療等の都市機能を持ち、コンパクトシティの核としての役割を果たすとともに、地域と一体となつたまちづくりを進め、公民共創で新たな価値を創造し都市の魅力を向上することが求められています。

＜静岡市立地適正化計画＞

- ・ 東静岡地区は「**都市機能誘導区域**」に位置づけられ、拠点形成の方向性として「**教育・文化・スポーツ、国際交流、情報発信等の機能強化**」や「**商業・業務機能の強化**」「**子育て環境等、周辺居住者の生活利便性の充実**」を掲げています。

【誘導施設】

- ・子育て支援施設
 - ・大学
 - ・専修学校
 - ・大規模ホール
 - ・図書館

【立地想定施設】

- ・買回り品大型専門店
 - ・都市型産業施設
 - ・最寄品総合スーパー
 - ・宿泊施設

＜静岡市都市計画マスタープラン＞

- ・ 東静岡地区は「都市拠点」に位置づけられ、定住人口の誘導、文化・スポーツ、国際交流、情報発信等の都市機能の集積を図り、静岡・清水駅周辺とは異なる魅力と賑わいのある都市空間の形成と、交流人口の増加を図ることとしています。
 - ・ また、集約型都市構造の実現に向けた重点地区「東静岡副都心地区」に位置づけられ、まちづくりの方針として「快適で住みやすいまちづくりの推進」や「安心・安全のまちづくりの推進」「利便性の高い新たなぎわい拠点の形成」を掲げています。



2. まちづくりの状況

(2) まちづくりをとりまく社会動向

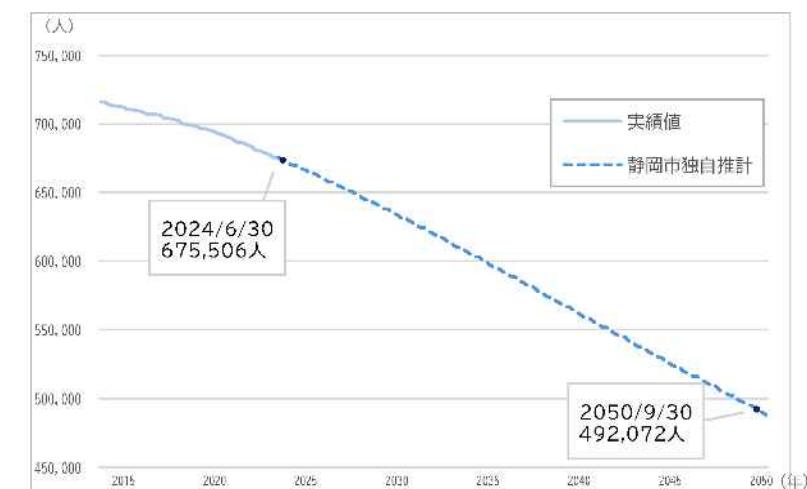
基本構想におけるめざす将来像やまちづくりの方針を設定するうえで、考慮する必要がある社会動向等を以下に整理しました。

キーワード	社会動向
文化・スポーツ	<ul style="list-style-type: none">スポーツやエンターテインメントビジネス市場の拡大 等
若者・子ども	<ul style="list-style-type: none">少子高齢化と人口減少社会の進行 等
モビリティ	<ul style="list-style-type: none">既存のモビリティの進化や新たなモビリティの創出など移動手段の多様化DX（デジタル・トランスフォーメーション）の進展 等
生活の質	<ul style="list-style-type: none">人生100年時代の到来とQOL（生活の質）の重視多様性の尊重や誰も排除しない社会をつくる意識の向上 等
持続可能性	<ul style="list-style-type: none">気候変動対策や生物多様性確保等に向けた持続可能なまちづくりへの期待安全・安心の確保に対する意識の向上 等

静岡市の人口の動向と将来見通し

- 静岡市の人口は、1990年をピークに減少に転じ、2020年には70万人を下回り、**20政令指定都市中最下位**となっています。この原因には、出生数の減少及び人口流出の増加があり、静岡市にとって深刻な課題となっています。
- 静岡市の独自推計によると、静岡市の人口は、現状のまま対策をとらなければ、2050年には約49万人となり、**2024年と比べて27%の減少**が見込まれます。また、少子高齢化が進行し、**2050年には老人人口（65歳以上）1人あたりの生産年齢人口（15～64歳）が1.3人になると予測**されます。静岡市としては、「決してこのような将来を迎えてはならない」と強い危機感を持ち、抜本的な人口減少対策を実施していく必要があります。

（参考）静岡市の将来推計人口（総人口）



2. まちづくりの状況

(3) 東静岡地区の成り立ち

東静岡地区は、東海道に沿って形成され、近代以降に、**静岡鉄道の整備**や、**プラモデルなどものづくり産業の集積**などにより、住宅と工場が混在しながら都市化が進んだ地区です。

1990年代以降に進められた**東静岡駅周辺土地区画整理事業**や**JR東静岡駅の設置**により、**グランシップ**や**マークイズ静岡**などの**大規模施設**が開業して、地区の様相は大きく変貌を遂げました。

今後も地区内には**静岡市アリーナ**、**新県立中央図書館**といった新たな文化・スポーツ等の都市機能の導入が計画されています。



2. まちづくりの状況

(4) 東静岡地区の特徴

●東静岡地区の周辺の広域環境

東静岡地区の周辺は巴川流域の平野が広がり、日本平、谷津山などの豊かな自然に囲まれています。

また、静岡大学、静岡県立大学、常葉大学などの大学、静岡県立美術館、ツインメッセ静岡、日本平動物園などの観光・文化施設、草薙総合運動場などのスポーツ施設、静岡県立総合病院、静岡済生会総合病院などの病院が多数立地しています。

その中でも東静岡駅の周辺には、グランシップのほか、**静岡市アリーナや新県立中央図書館が計画**されており、文化・スポーツの拠点として、今後さらなる発展が期待されています。

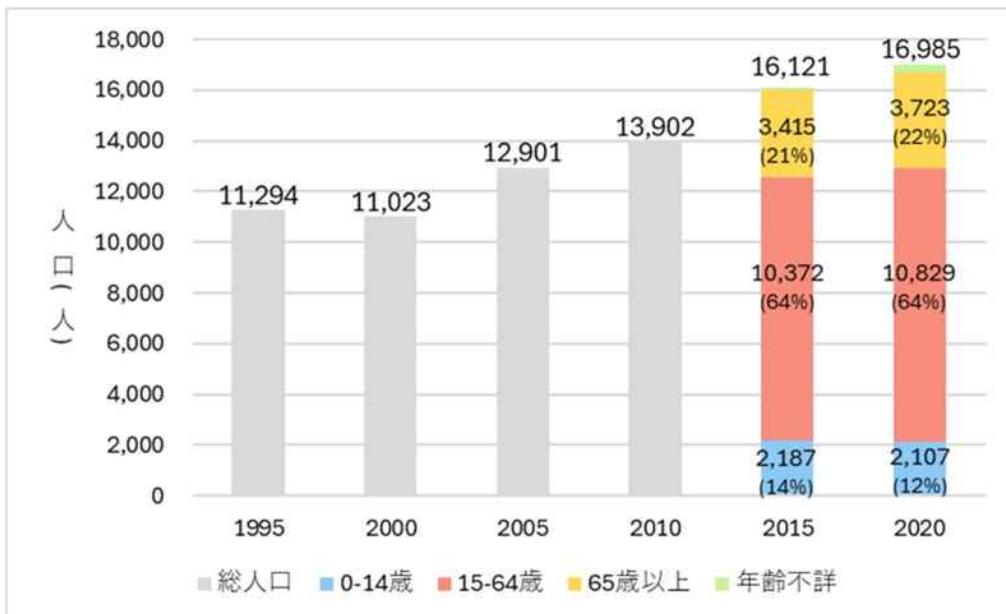
<東静岡地区の周辺の資源分布>



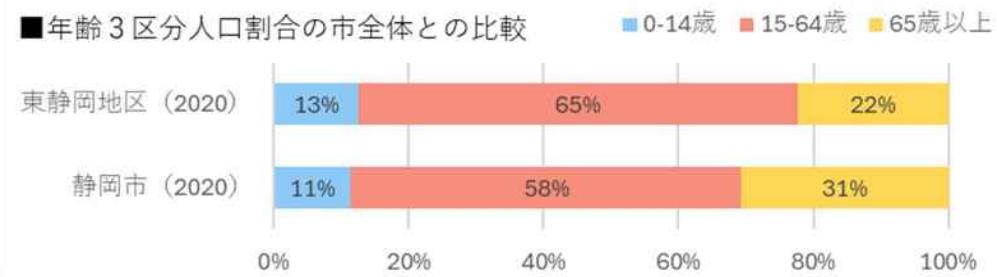
●東静岡地区の人口動向

東静岡地区の人口は、市全体では減少している一方で、2000年以降**増加しています**。また、市全体より年少人口（0-14歳）と生産年齢人口（15-64歳）の割合が大きく、**ファミリー層や若年層の流入**がみられ、その特徴を活かしたまちづくりが求められます。

<東静岡地区の人口推移と年齢3区分人口割合> 出典：国勢調査



■年齢3区分人口割合の市全体との比較



2. まちづくりの状況

(5) まちづくりへのアイデア・意見

■東静岡地区まちづくり協議会

<実施概要>

●目的

東静岡地区における新たなまちづくりを検討するにあたり、関係団体等から広く意見を聞くことを目的に、東静岡地区まちづくり協議会を設置し、これまで4回の会議を実施しました。

●開催日時・議事

回数	日時	議事等
第1回	2024年7月11日	<ul style="list-style-type: none">・東静岡地区のまちづくりの考え方・アイデアコンペ
第2回	2024年11月22日	<ul style="list-style-type: none">・アイデアコンペの提案状況・静岡市アリーナ基本計画(案)・東静岡地区まちづくり基本構想の概要・用途地域等の変更(案)
第3回	2025年1月30日	<ul style="list-style-type: none">・アイデアコンペの結果報告・静岡市アリーナ基本計画・東静岡地区まちづくり基本構想(骨子)
第4回	2025年5月22日	<ul style="list-style-type: none">・アリーナの整備に向けた取組状況・交通渋滞対策の取組状況・用途地域等の変更に向けた取組状況・新県立中央図書館の整備に向けた取組状況・東静岡地区まちづくり基本構想（案）

<協議会での主な意見>

キーワード	主な意見
文化・スポーツ	<ul style="list-style-type: none">・地域住民にとってアリーナが必要と思ってもらえるような取組が重要
若者・子ども	<ul style="list-style-type: none">・「若者が住み続ける」だけでなく、「若者が東静岡に訪れたくなる」ための取組も重要・大学生や高校生の視点も積極的に取り入れるべき・若者や子育て世代など、多様な視点での意見を把握し反映していくことが重要
モビリティ	<ul style="list-style-type: none">・歩行者の歩きやすさも重要だが、自転車のネットワーク形成や駐輪場確保も重要・公共交通の利用促進に向けた取組が重要・鉄道を挟む南北の回遊性の向上が重要
生活の質	<ul style="list-style-type: none">・パブリックスペースについては、ハードルが低く使える場所をバランスよく取り入れていくことが重要・ペデストリアンデッキについては、起終点及び途中の既存の施設等とのつなぎ方が重要・東静岡駅周辺には特別支援学校や外国人のビジネス専門学校があり、障がいを持っている方、外国人も利用しやすい環境づくりが重要・地域の実情を把握し、課題に対する対応を検討するべき
持続可能性	<ul style="list-style-type: none">・東静岡周駅辺には谷津山や護国神社があり、それらの資源を保全・活用することが重要

2. まちづくりの状況

■まちづくりアイデアコンペ in 東静岡の実施

<実施概要>

●目的

アリーナを核とした「東静岡地区まちづくり基本構想」の策定にあたり、幅広い方々からまちづくりに対する多様なアイデアを提案していただくことを目的としてコンペを実施しました。

●実施期間

2024年7月26日～2024年12月8日

●審査委員

審査委員長

遠藤 新 工学院大学 建築学部 まちづくり学科 教授

審査委員

長尾 亜子 静岡理工科大学 理工学部 建築学科 准教授

小嶋 文 埼玉大学 理工学研究科 准教授

西 美有紀 (一社) 草薙カルテッド(都市再生推進法人)

中村 直保 静岡市自治会連合会 会長

吉田 信博 静岡市 副市長

●応募件数

都市デザイン部門 28作品(96名)

総勢107名からの
ご提案がありました！

まちを楽しむ部門 8作品(11名)

<コンペで得られた主なアイデア>

提案作品	基本構想へ反映した主なアイデア
都市デザイン部門 最優秀賞	<ul style="list-style-type: none">「非日常（文化・スポーツの拠点）と日常（住みやすい住環境）」がお互いに寄り添うことが重要であること市民の活動の場が点から始まり、点が集積して線となり、面的なまちづくりに波及していくこと
都市デザイン部門 優秀賞	<ul style="list-style-type: none">緑・水の創出や保全など「持続可能性」が重要な要素であること
まちを楽しむ部門 審査委員特別賞	<ul style="list-style-type: none">子どもたちが夢や可能性を抱くきっかけとなるような空間の創出とその空間をつなげることが重要であること
まちを楽しむ部門 会場人気特別賞	<ul style="list-style-type: none">東静岡に学生が集まる居場所を設け、この居場所をきっかけに地域社会との交流が生まれ、静岡市に対する愛着につながっていくこと
その他の提案作品	<ul style="list-style-type: none">既存のものづくりや文化・スポーツの資源を活かし、新たな価値・魅力を生み出す空間や場の創出が重要であることまちに「青春（自分のやりたいことに向かって真剣に取り組む状態）」を受けとめる場があり、その青春をまちの人で育てることが重要であること

3. めざす将来像

<めざす将来像>

「文化・スポーツによる感動体験」と「快適で安心できる暮らし」が両立したまち

～最先端の文化・スポーツ等による新たな交流・滞在の創出（非日常）と、

快適で安心して住み続けられる環境（日常）が共存する、非日常と日常が融合した都市拠点～

東静岡地区のまちづくりでは、非日常と日常の融合により、静岡市に「新たな価値」を生み出すことが重要です。

この「新たな価値」を生み出すために、この地区の地理的特徴やまちの資産を活かしながら、今後の投資効果を見据えたまちづくりを進め、この地区を2つの強みをもった都市拠点としていくことをめざします。

「新たな価値」の創出：東静岡地区がめざす2つの強み

文化・スポーツによる感動体験（非日常）

東静岡地区は文化・スポーツの核となる施設が集まる地区となります。

- ・北口：静岡市アリーナ（予定）、バンダイ新工場
- ・南口：新県立中央図書館（予定）、グランシップ

これらの施設が集積し、それが効果的に活用されると、新たな交流・滞在が生まれ、「非日常」を生み出す地区に成長していきます。

こうしたまちへの投資が、この地区への更なる民間投資の呼び水となり、これらが一体として機能することで、新たな文化・スポーツの拠点として、人々に「非日常」の文化・スポーツの感動体験を提供していきます。

快適で安心できる暮らし（日常）

快適で安心できる暮らしには、交通利便性や、子育て・医療・商業・教育等の充実、緑豊かな良好な景観などが重要です。

東静岡駅、長沼駅が利用できる交通利便性を活かし、これらをペデストリアンデッキで結ぶことで、歩いて暮らしやすく、自動車が渋滞しにくいまちにしていきます。

また、新たな交通システムの導入等により、今後の発展が見込まれる大谷・小鹿地区などの周辺地区と連携することで、医療・商業等のサービスの利用しやすさを向上していきます。

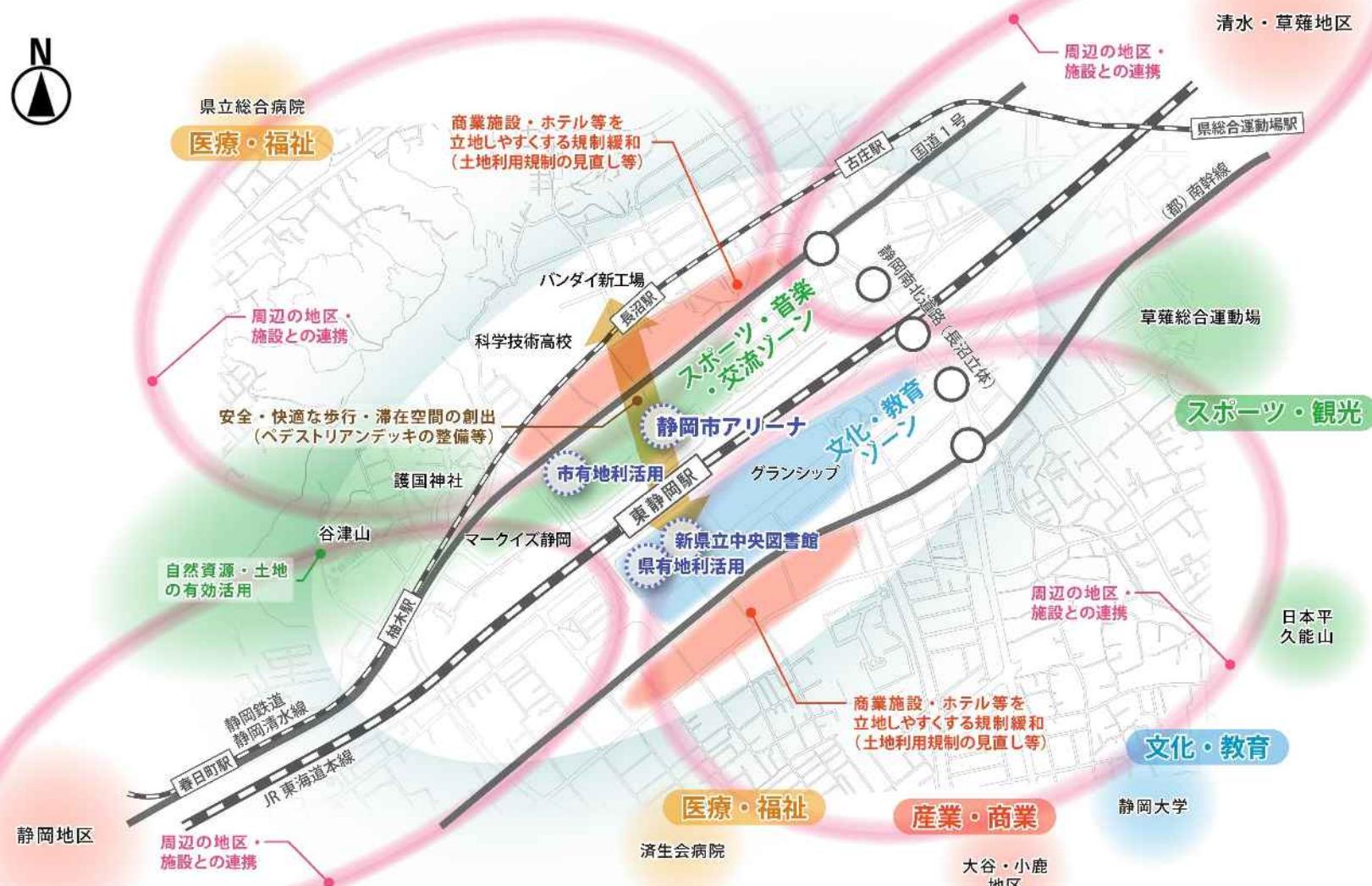
このように地区の特性を活かしながら、「日常」の利便性が高い、快適で安心できる暮らしを実現していきます。

「文化・スポーツによる感動体験（非日常）」と「快適で安心できる暮らし（日常）」が融合し、「新たな価値」となり、公共投資と民間投資の相乗効果を生み、楽しく住みやすいまちにつながっていく

3. めざす将来像

<まちづくりのイメージ>

- 東静岡地区を中心として、鉄道や新たな交通システム等による**東西南北の各地区と連携した面的なまちづくり**を進め、**その大きな経済社会効果（まちの魅力向上、文化振興、地域経済の活性化など）**を市全体へと波及させていきます。



文化・スポーツによる感動体験

- ・たくさんの楽しい催しによりワクワク・ドキドキを体験
- ・未来に夢や希望を持てる



快適で安心できる暮らし

- ・交通利便性が高く移動しやすい
- ・医療施設が身近になる安心感
- ・豊かな緑と美しい景観に浸れる

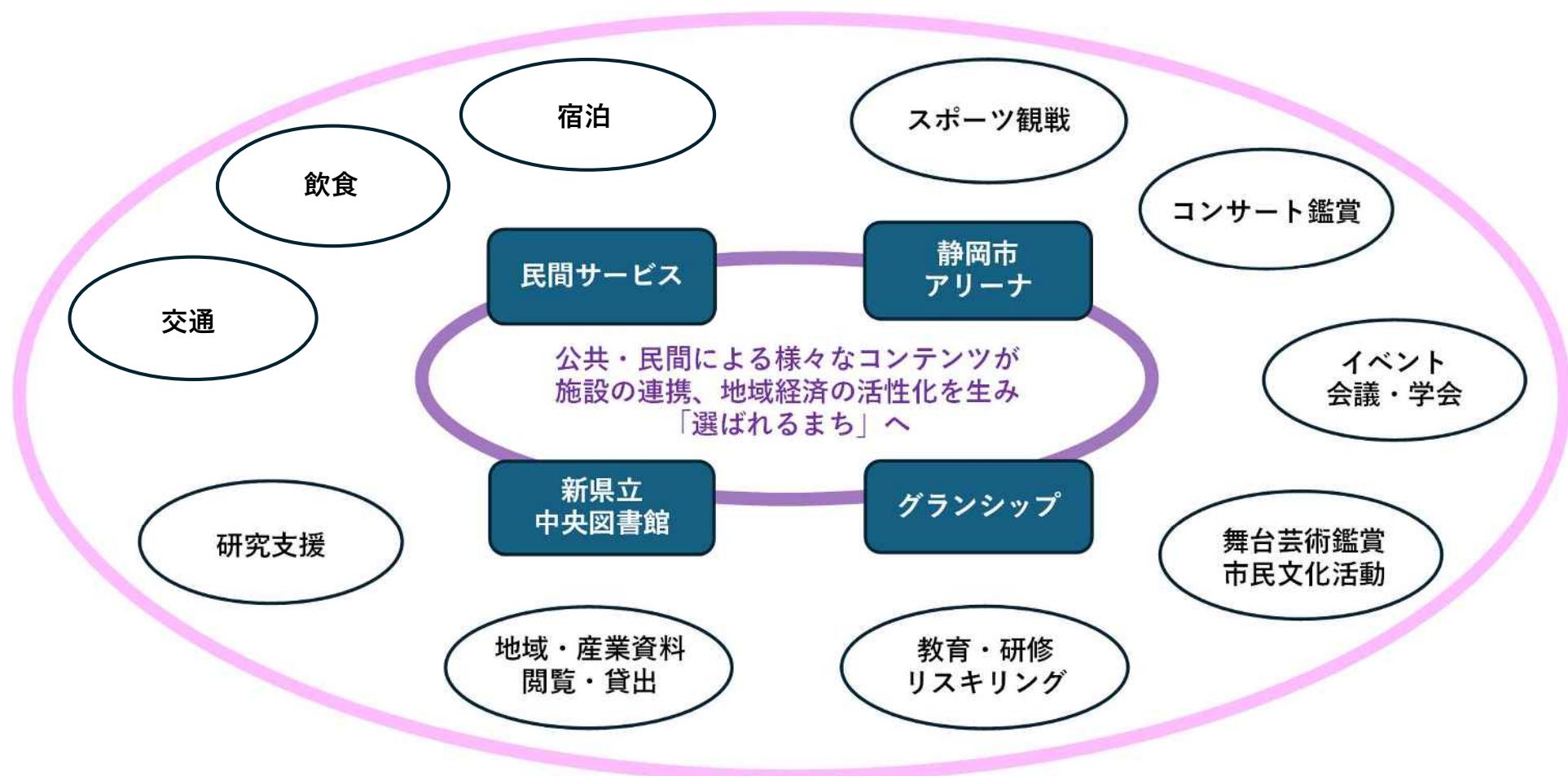


3. めざす将来像

<県市連携を核とした産学官民の連携イメージ>

- 県市連携を核とした**産学官民の連携**により、静岡市アリーナ・新県立中央図書館・グランシップ等の**公共施設**と、宿泊・飲食・交通等の**民間サービス**の連動性を高め、相互協力によるまちづくりを進めます。
- これにより、**公共施設の多機能拠点化**と、**民間活力の取り込み**を進め、東静岡地区やその周辺エリアにおける**人的集積、流動性向上・活性化、エリア価値向上**を図ります。

公共施設と民間サービスの連動性向上・相互協力によるまちづくりのイメージ



3. めざす将来像

<東静岡のまちづくりによる相乗効果>

- アリーナを核としたこれからの**東静岡のまちづくり**は、鉄道軸で結ばれた静岡駅・清水駅周辺等のまちづくりとあいまって、まちの魅力を高め、人が集まり交流・滞在を創出するとともに、最先端の文化・スポーツ・音楽を提供するなど、静岡市に新たな価値を生み出します。
- 静岡駅周辺や草薙・清水駅周辺等での**それぞれが異なる個性を持つまちづくり**と、鉄道軸等による**各地区の連携**により、人・モノ・情報の活発な交流を創出し、**静岡市全体の魅力や活力の向上**につなげていきます。

新たな価値の創造・静岡市全体の魅力や活力の向上

静岡駅周辺
新静岡駅周辺

歴史
・
商業
・
業務

東静岡駅周辺
長沼駅周辺

文化
・
スポーツ
・
音楽

清水駅周辺
新清水駅周辺
草薙駅周辺

海洋
・
産業
・
教育



4. まちづくりの5つの方針

● ここからは、めざす将来像の実現に向けた、まちづくりの5つの方針、まちづくりの主要プロジェクトを示します。

<めざす将来像>

「文化・スポーツによる感動体験」と
「快適で安心できる暮らし」が両立したまち

<まちづくりの5つの方針>

① 文化・スポーツの拠点としての、
まちの新たな価値づくり

② 若者や子どもが、
夢や希望を持てるまちづくり

③ 誰もが移動しやすく、
住みやすいまちづくり

④ 多様な都市機能が充実し、
居心地が良く歩きたくなる空間づくり

⑤ 豊かな緑を感じ、
美しい景観に浸ることができる環境づくり

<まちづくりの主要プロジェクト>

Ⓐ 静岡市アリーナ 【該当方針：① ② ④ ⑤】

Ⓑ 新県立中央図書館 【該当方針：① ② ④ ⑤】

Ⓒ ペデストリアンデッキ 【該当方針：③ ④】

Ⓓ 新たな交通システムの導入
【該当方針：③】

Ⓔ 土地利用規制（都市計画）の見直し
【該当方針：① ② ④】

Ⓕ 里山公園（谷津山）の保全・活用
【該当方針：⑤】

Ⓖ 低未利用地を活用した、
まちの魅力を高める都市開発
【今後、具体化していくプロジェクト】

4. まちづくりの5つの方針

① 文化・スポーツの拠点としての、まちの新たな価値づくり

- 東静岡駅北口の静岡市アリーナや、南口の新県立中央図書館の整備を活かした、文化・スポーツ・音楽と触れ合える空間づくり
- 既存のグランシップを含めた各施設の連携と、施設を活用した人が集まる仕組みづくり
- ものづくりや文化・スポーツ・音楽の資源等の固有の魅力を活かした、市内外から選ばれるまちづくり
- 観光客によるゴミ捨てや騒音等に対するハード・ソフト両面からのマナー違反行為への対策



4. まちづくりの5つの方針

②若者や子どもが、夢や希望を持てるまちづくり

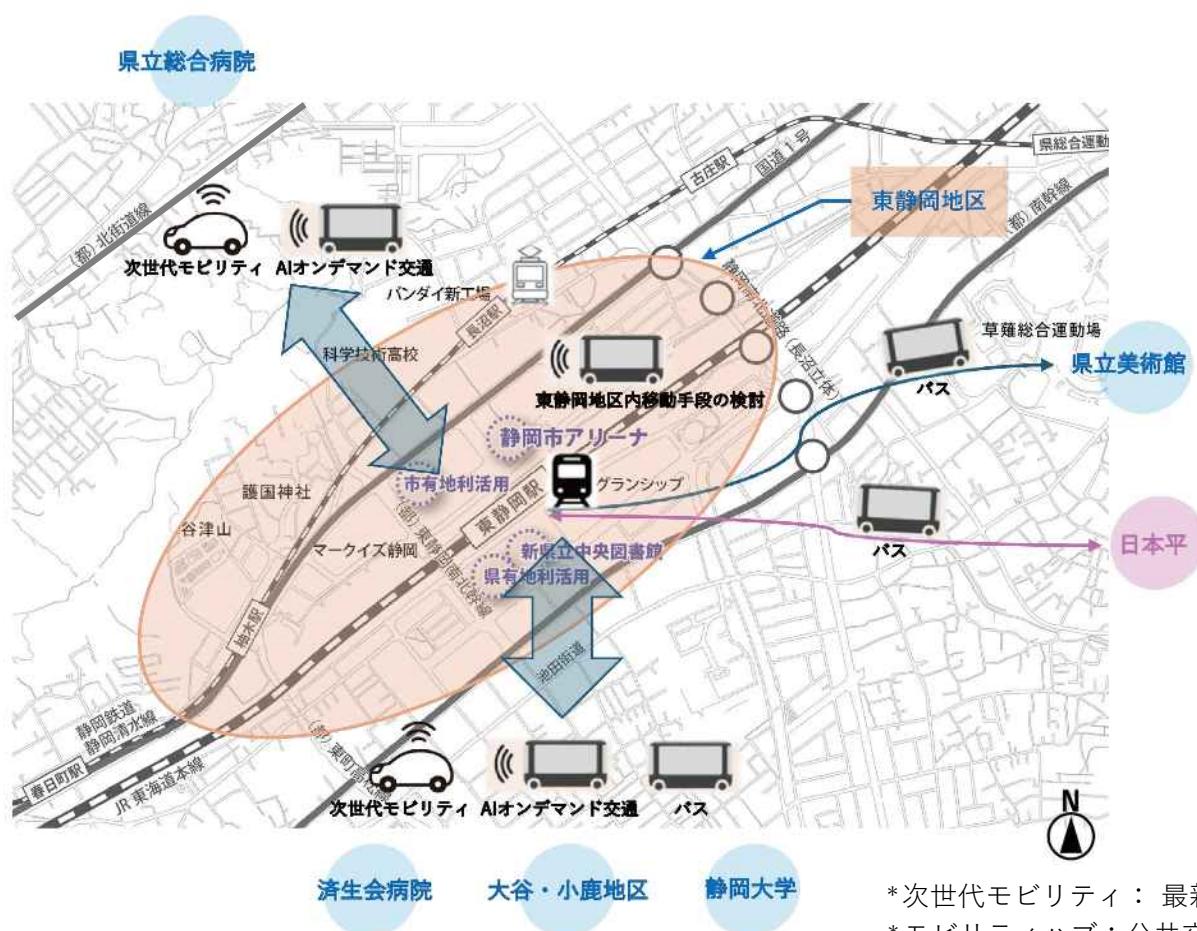
- 若者・子育て世代が「住み続けたい、訪れたい」と感じ、進学や就職で一度静岡市を離れても、**帰ってきたくなるまちづくり**
- 市外・県外の方が「住んでみたい、訪れてみたい」と思えるまちづくり
- まち全体で「青春（自分のやりたいことに向かって真剣に取り組む状態）」を、育み・支え・応援できる空間・仕組みづくり
- 学生や子ども達と地域をつなぐ場での滞在・交流を通して、地域への関心や愛着を育てる（教育機関との連携等）



4. まちづくりの5つの方針

③誰もが移動しやすく、住みやすいまちづくり

- 鉄道・バスや自転車に加え、**次世代モビリティ***・**モビリティハブ***の導入も含めた、**誰もが移動しやすいまちづくり**（バリアフリー、ユニバーサルデザイン、利便性の高い公共交通、自転車の走行空間や駐輪スペースの確保、駅まち空間の改善等）
- **安全・安心で住みやすいまちづくり**（AIオンデマンド交通*等の新たな技術・交通体系を活用した、県立総合病院・済生会病院等の**医療・福祉施設**や、高校・大学等の**教育施設**、大谷・小鹿地区の**産業・商業施設との連携**）
- 東静岡駅～長沼駅の連絡動線の強化（歩行者と車の動線分離：ペデストリアンデッキの整備等）
- 地域の生活環境の保全に向けた、国道1号等の**道路の渋滞対策**



* 次世代モビリティ：最新技術を用いて従来の交通手段や交通システムを進化させたもの

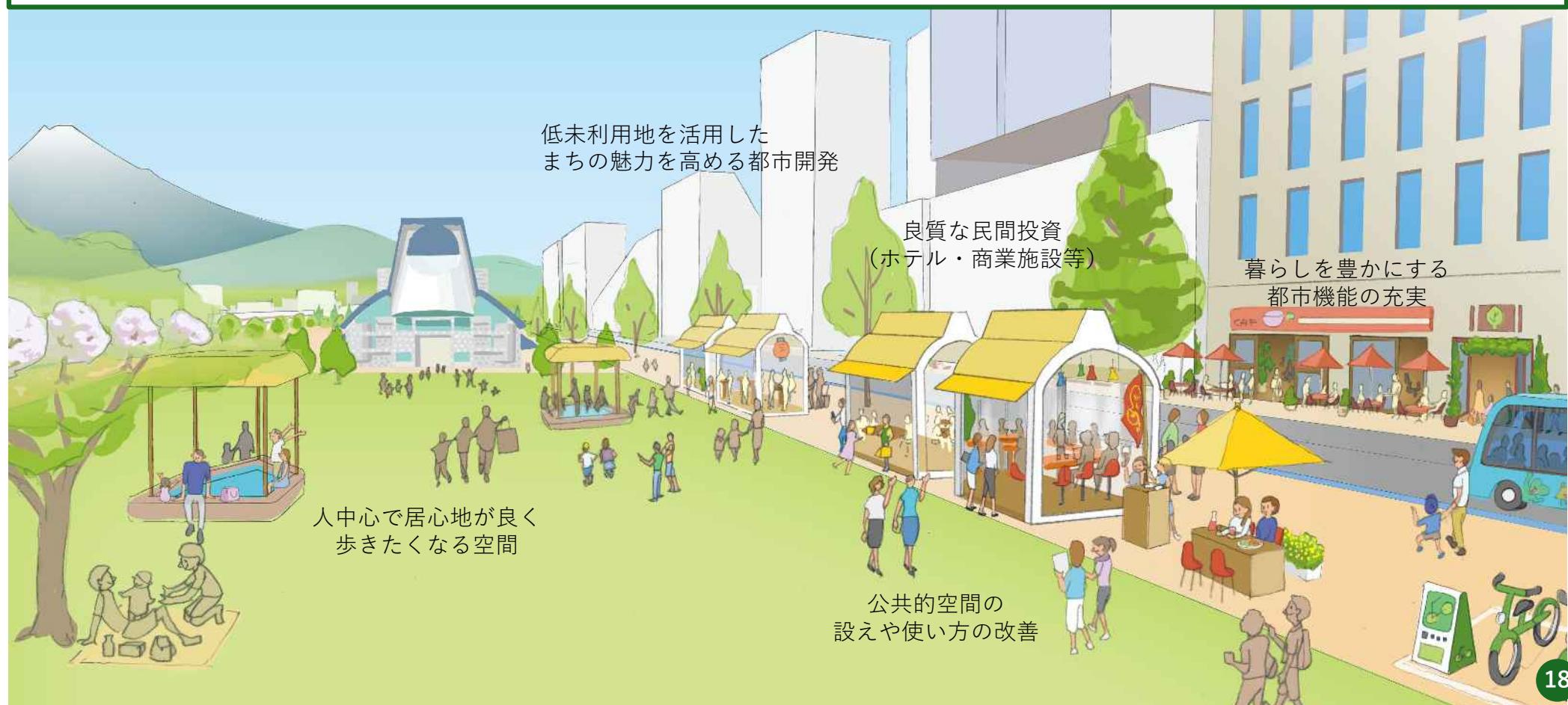
* モビリティハブ：公共交通機関やシェアモビリティ等複数のモビリティの乗り換えの拠点

* AIオンデマンド交通：AIを活用し、利用者予約に対しリアルタイムに最適配車を行うシステム

4. まちづくりの5つの方針

④ 多様な都市機能が充実し、居心地が良く歩きたくなる空間づくり

- 土地の使い方やまちの密度のルールの柔軟な見直しによる良質な民間投資の誘発（ホテル・商業施設等の立地や、生活環境の改善）
- 低未利用地を活用した都市開発による魅力的な空間づくり
- 多様な人々が思い思いに過ごすことができる、人中心で居心地が良く歩きたくなる空間づくり
- 広場や公園、道路、調整池、民間施設のオープンスペースなど公共的空間の設えや使い方の改善による居場所となる空間づくり
- 多様な世代にとって住みやすい住環境を創出するための、暮らしを豊かにする都市機能の充実
- 市民の活動の起点となる小さな場の点在による、まち全体への人の流れの創出
- 災害時には安全に避難できる空間や設備の確保



4. まちづくりの5つの方針

⑤ 豊かな緑を身边に感じ、美しい景観に浸ることができる環境づくり

- 健康で快適な生活・気候変動対策・生物多様性の確保等に向けた、緑地保全や緑化推進
- 市民が身边に自然と親しむ里山公園として、谷津山などの自然環境の保全や利活用の推進
- 公共建築物や民間施設での敷地内緑化などによる、良質な都市緑地の創出
- 環境に配慮した都市開発事業の促進（ZEB*、再生可能エネルギーの導入等）
- 富士山や谷津山の眺望等の地域の特性を活かした、美しく風格ある景観の形成



*ZEB：省エネ、創エネによりエネルギー消費量の収支ゼロを目指す建物

5. まちづくりの主要プロジェクト

Ⓐ 静岡市アリーナ 【該当する方針：① ② ④ ⑤】

■めざすアリーナ

- 最高峰のプロスポーツの試合や大きなコンサートなど、これまでの市内の施設（中央体育館、市民文化会館など）では開催できなかつた、さまざまな大型イベントを開催できる**多目的アリーナ**（8,000席以上）の実現をめざします。

地域のためのアリーナ

・東静岡の文化・スポーツの拠点になるとともに、地域のまちづくりや防災にも役立てます。

集うアリーナ

・市内、市外や県外から人が集まり、新たな交流や経済効果を生みます。

選ばれるアリーナ

・いろいろな演出ができる、イベント会場として使いやすい、主催者や観客から選ばれるアリーナとします。

観るアリーナ

・バスケットボールやバレー、卓球など、最高峰のプロスポーツの試合や、大きなエンタメイベントを実現します。

持続可能なアリーナ

・民間のアイデアを活かした運営やサービスにより、将来にわたり魅力があり、収益を生みだすアリーナとします。



アリーナのイメージ（沖縄アリーナ）



バスケットボール



バレーボール



コンサート



光と音の華やかな演出

5. まちづくりの主要プロジェクト

■まちづくりにつながる多機能施設

- ・アリーナ単体ではなく、**まちづくりにつながる多機能施設**（宿泊施設・飲食・物販・教育施設等）をアリーナの付帯施設として検討します。
- ・**非興行日にも利用可能**な付帯施設により、まちの魅力向上や収益の向上、雇用の創出など、**持続的なまちづくり**の一助となります。

■防災施設としてのアリーナ

- ・大きな災害のときは、広い屋内スペースを活かした支援物資の受入れ、仕分けのほか、**避難所として避難者の受入れを担う防災拠点**となります。
- ・非常用電源や水などのライフラインを備えることで、**地域に安心・安全**をもたらします。

アリーナには、大型トラックがそのまま屋内（メインアリーナ）に入れる搬入口やコンクリート製の床、VIPルームなどの個室、センタラルキッチンを設けます。地震や風水害などの災害のときは、これらの設備が**緊急物資集積所**や**避難所**となります。

例えば、乳幼児同伴の方や要配慮者が個室を利用できるようにします。そのほか、市民や避難者への電気（スマホ等の充電）や水の供給、センタラルキッチンなどを活用した飲食の提供ができるようにします。



石川県産業展示館（内閣府HPより）



大型トラックが通れる搬入口
(SAGAアリーナ)



VIPルーム・プレミアムラウンジ（観戦だけでなく飲食も楽しめる個室）
(SAGAアリーナ)



セントラルキッチン
(沖縄アリーナ)



5. まちづくりの主要プロジェクト

(B) 新県立中央図書館 【該当する方針：① ② ④ ⑤】

■県立中央図書館の移転計画

- ・ 静岡県は、現在の県立中央図書館を**東静岡駅南口に移転**する予定です。
- ・ 県立中央図書館は、「静岡県立葵文庫」として1925年4月1日に開館し、2025年4月1日に**100周年**を迎えていきます。
- ・ 新県立中央図書館は、**デジタル技術の進展**などを踏まえた新施設となる見込みです。



※写真はイメージ

※現在、静岡県が施設計画を検討中

5. まちづくりの主要プロジェクト

④ ペデストリアンデッキ 【該当する方針：③ ④】

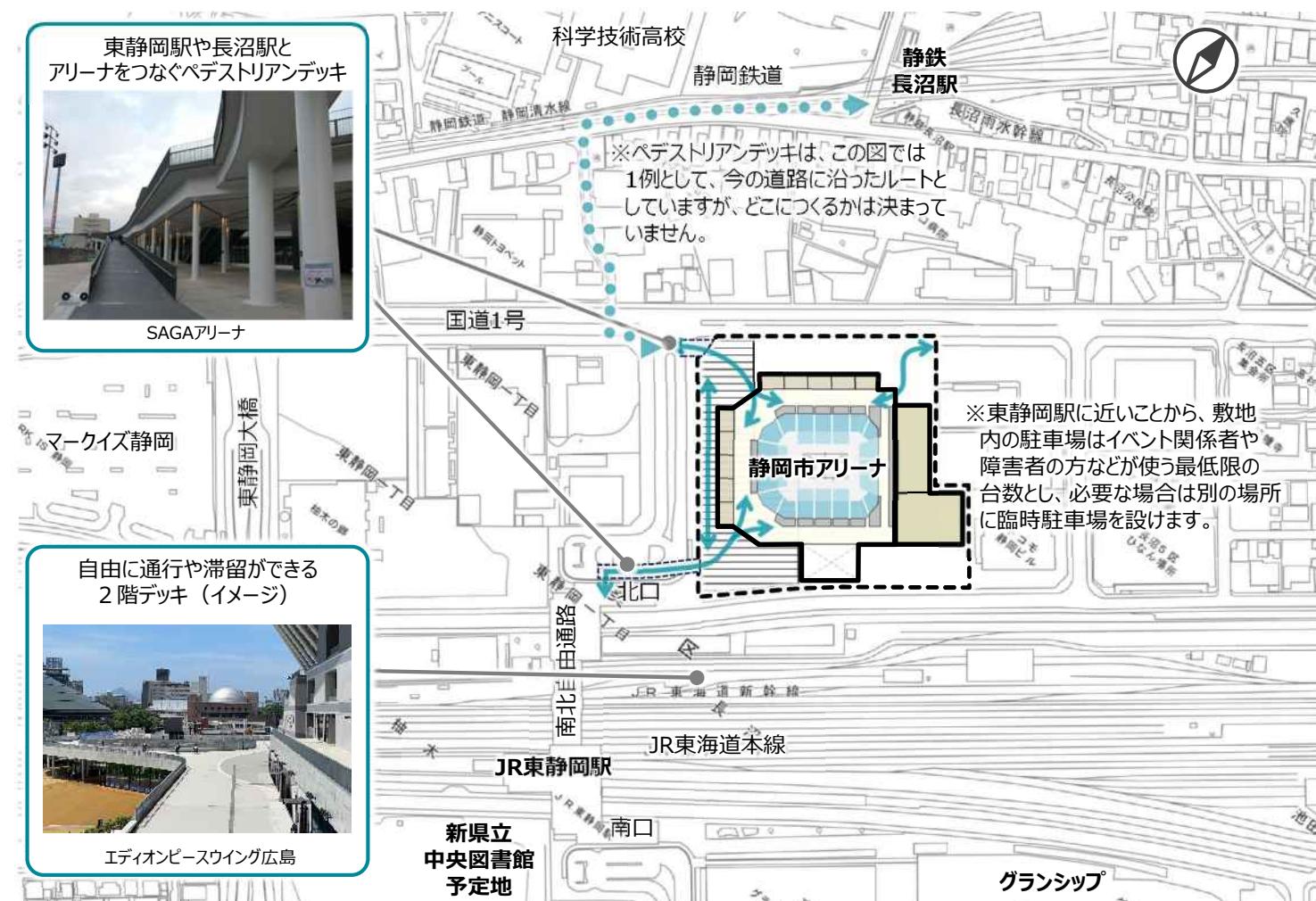
■まちをつなぐペデストリアンデッキ

- 東静岡駅、長沼駅とアリーナをつなぎ、歩行者と自動車の動線を分けることで、来場者や住民が**安全・快適に通行・滞在**できるよう、**ペデストリアンデッキ**（高架の歩行者空間）を整備します。



■ペデストリアンデッキのルートの選定

- 東静岡地区のめざす姿を踏まえ、**事業費**や**交通利便性**のほか、**交流・滞在**の創出や**住環境**との**共存**などの観点から、最適なルートを選定します。



5. まちづくりの主要プロジェクト

D 新たな交通システムの導入【該当する方針：③】

■交通事業者との連携

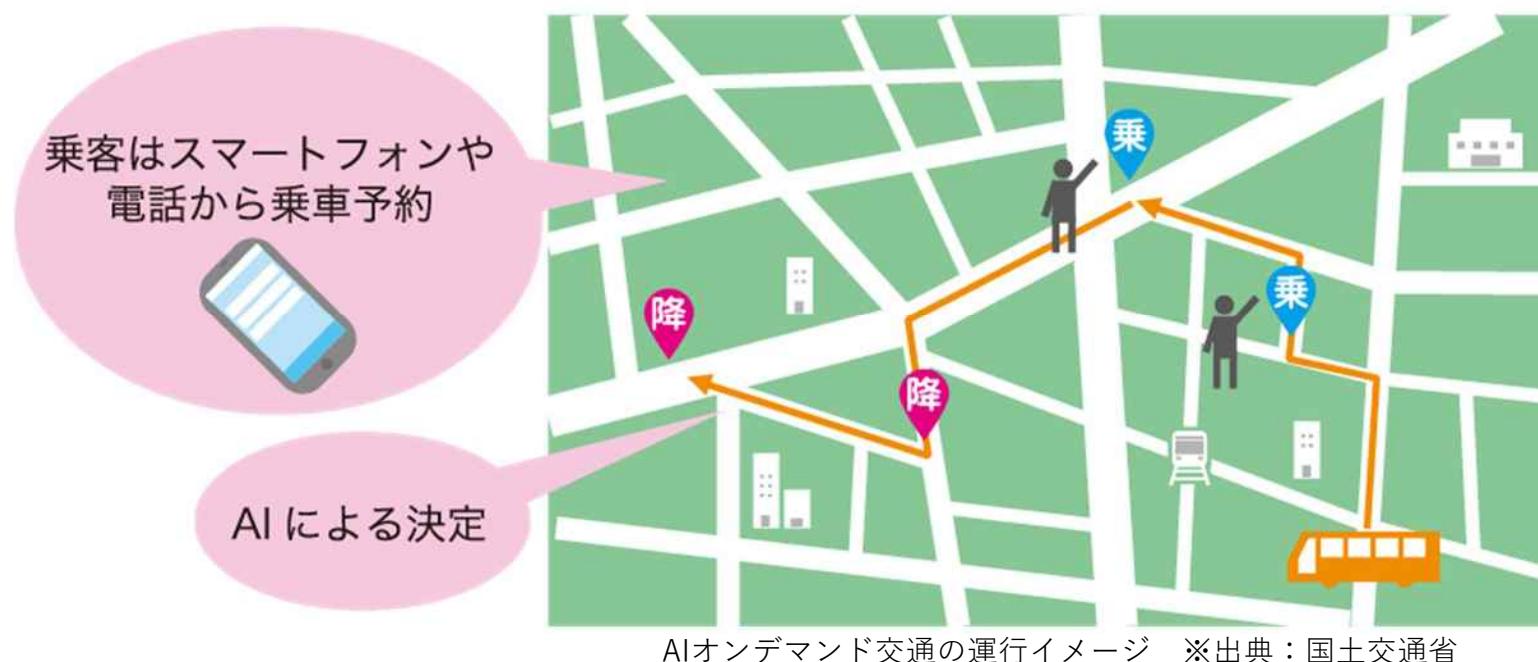
- 今後の技術革新による**次世代モビリティの導入**を積極的に検討し、**鉄道の利用促進**や、地域に合わせた**バス運行の検討**など、基幹となる公共交通（JR・静岡鉄道・静鉄バス等）とも連携した、誰もが移動しやすいまちづくりをめざします。

■AIオンデマンド交通

- 来訪者の地区内外の回遊を促すとともに、地区住民の買い物や通院など**日常生活の利便性向上**を図るため、AI（人工知能）を活用した、移動のニーズに合わせて運行する**乗り合いの交通手段**の導入をめざします。

○導入するAIオンデマンド交通のイメージ

AIオンデマンド交通とは、AIを活用した効率的な配車により、利用者予約に対して、**運行車両の最適配置やルートの最適化**、**乗り合いの最適な組み合わせ等**を行うシステムです。運行モデルは、路線バスとは異なり、対象エリア内にて**運行方法や運行ダイヤ**、発着地の停留所をニーズに合わせて設定するなど、**地域の特性に応じた柔軟な運行**をめざします。



5. まちづくりの主要プロジェクト

⑤ 土地利用規制（都市計画）の見直し 【該当する方針：① ② ④】

■用途地域等の柔軟な見直し

- 東静岡地区の新たなまちづくりにあたり、地区内の土地の**より自由かつ高度な利用**を可能とし、商業施設やホテル等が立地しやすくなるよう、国道1号沿線、南幹線沿線等の**土地の使い方やまちの密度のルール**を**バランス良く変えていく**ことを検討します。（用途地域の工業系から商業系への変更等）
- ペデストリアンデッキ等の**インフラの整備・改良**に合わせて、その**周辺の土地利用転換**（ペデストリアンデッキからアクセスしやすい商業施設の立地等）の促進を図ります。

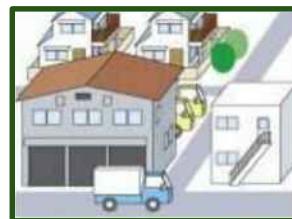
○用途地域変更のイメージ



工業地域



商業系用途地域



準工業地域

※出典：千葉市HP（一部加工）

○ペデストリアンデッキからアクセスしやすい商業施設等のイメージ



○ペデストリアンデッキからアクセスしやすい商業施設等の事例



茅ヶ崎駅周辺



豊田市駅周辺

※出典：茅ヶ崎市HP

5. まちづくりの主要プロジェクト

⑤ 里山公園（谷津山）の保全・活用 【該当する方針：⑤】

■ 身近な自然環境の保全と活用

- ・ 谷津山は、市民が徒歩等でアクセスできる市街地に近接した貴重な自然環境であり、社会全体の力による「共創」により自然環境の保全と活用を進めていきます。
- ・ 放任竹林対策や生物多様性の確保等により自然環境を保全するとともに、市民が身近にアクセスでき、楽しむことができる環境づくりに取り組むことで、身近に自然を感じながら快適で安心できる住環境の創出をめざします。

具体的な取組

- ① 保全・活用に取り組む市民活動の発展・拡大の下支え（放任竹林対策や環境学習に取り組む活動の支援）
- ② 様々な主体との連携により保全・活用に取り組む体制の構築（保全活用に向けた意見交換・情報共有ができる場の創出）
- ③ 利用・アクセス環境の改善の実施（眺望場所や散策路など）



市民団体による
放任竹林対策活動



自然とふれあえる
散策路



谷津山周辺各所に
存在するアクセス口



身近な自然環境を活かした
ハイキングイベント

5. まちづくりの主要プロジェクト

⑤ 低未利用地を活用した、まちの魅力を高める都市開発 【今後、具体化していくプロジェクト】

■都市の個性と質や価値を高める都市開発

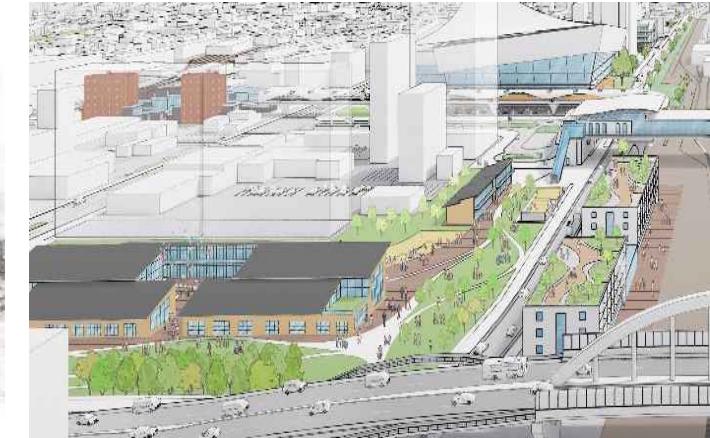
- ・地区内に点在する県有地・市有地等の低未利用地を活用し、県市連携による魅力的な都市空間の実現に向けた都市開発を進めます。
- ・都市開発は、「まちづくりの5つの方針」を踏まえ、東静岡地区の新たなまちづくりに寄与するものに取り組んでいきます。



※出典：LIFE Streaming



※出典：東静岡「緑と水が織りなす新しい東海道」子育て世代が集う、持続可能な理想都市



※出典：ヒガシズ 際立つ！



※出典：まちまるごとアリーナ



※出典：「かいゆう」のまち



※出典：WEAVING NETWORK

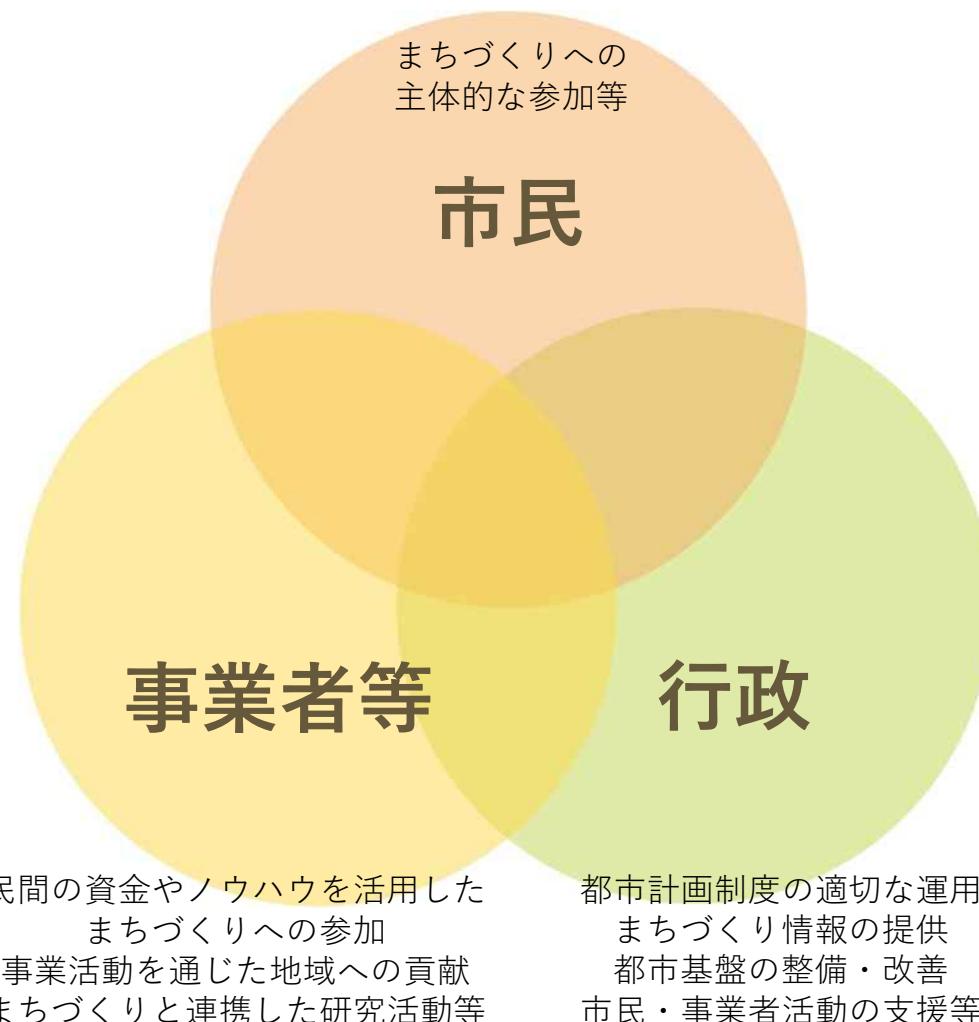
まちの魅力を高める都市開発のイメージ（アイデアコンペでの提案より）

6. 役割分担と今後の進め方

(1) 社会全体の力による「共創」のまちづくり

まちづくりを進めていくためには、市民や事業者等の様々な主体と行政がお互いに役割を明確にしつつ、連携・協力してまちづくりを進めていくことが必要です。

■社会全体の力による「共創」のまちづくりのイメージ



■東静岡地区まちづくり協議会での議論や地元自治会との連携等

- 市民や事業者等、行政による公民共創を推進する体制として協議会を継続的に実施していきます。
- 地域住民には、まちづくりにおける各段階において、説明会等により丁寧な説明・意見交換を実施していきます。
- まちづくりの取組状況は、webサイト等により情報発信していきます。

コンペ受賞者が考えるこれからのまちづくり

(まちを楽しむ部門 審査委員特別賞受賞者へのヒアリングより)

- まちづくりにおいては、単に新たにできた空間を地域住民に利用してもらうだけでなく、場づくりの段階から住民が参加することで交流が生まれ、それが地域への愛着や地域コミュニティの強化につながっていくと考えています。
- 東静岡駅周辺では、これからアリーナや図書館の整備が進む過程で住民が関わる機会（例：敷地の一角に花壇をつくるなど）をつくることで、新しい場や施設に対する住民の愛着が生まれ、地域と一体となってまちを盛り上げることができます。

多世代の交流が生まれる
コミュニティガーデンの
イメージ
(コンペでの提案より)

※出典：みんなで紡ぐコミュニティガーデン
とサイクリングロード



6. 役割分担と今後の進め方

(2) 主な役割と今後の進め方

まちづくりは一朝一夕で実現するものではありません。段階的なステップを踏み、小さくても着実に取組を進めていくことで、地区に良い変化を生みながら将来像の実現へと近づくことができます。

短期・中期・長期の3つのステップにおける、まちの状況（例）や、行政と市民・事業者等の取組（予定）を整理しました。

	短期（～2026）	中期（2027～2029）	長期（2030～）
まちの状況 (例)	<ul style="list-style-type: none">● 静岡市アリーナの整備に向けた取組が本格的に動き出す● バンダイ新工場が完成し、多くのファンが訪れる	<ul style="list-style-type: none">● 静岡市アリーナ・ペデストリアンデッキの整備が進む● 地域内外の回遊を促すモビリティの実装	<ul style="list-style-type: none">● 静岡市アリーナ・ペデストリアンデッキの完成・運営● 新県立中央図書館の完成・運営● 土地利用規制の見直しが行われ、静岡市アリーナや新県立中央図書館等と一緒にした魅力ある都市空間が形成● 次世代モビリティが導入され、誰もが移動しやすく、住みやすいまちになる
行政の取組 (市)	<ul style="list-style-type: none">✓ 具体的な事業等を示す「まちづくり基本計画」の策定✓ 静岡市アリーナ・ペデストリアンデッキの整備に向けた設計の実施✓ 地域内外の回遊を促すモビリティの検討・実証実験✓ 土地利用規制の見直しに向けた地域との調整✓ 里山公園（谷津山）の保全・活用の将来計画の作成	<ul style="list-style-type: none">✓ 静岡市アリーナ・ペデストリアンデッキの工事の実施✓ 地域内外の回遊を促すモビリティの実証実験・実装✓ 土地利用規制の見直しに向けた手続き✓ 里山公園（谷津山）の保全・活用の取組実施	<ul style="list-style-type: none">✓ 静岡市アリーナ・ペデストリアンデッキ等の適切な管理・利活用✓ 次世代モビリティの導入による誰もが移動しやすい環境整備✓ 土地利用規制の見直し✓ 里山公園（谷津山）の保全・活用の取組拡大
市民・事業者等の取組	<ul style="list-style-type: none">✓ 地域住民・関係者のまちづくりへの参画✓ 地域住民・関係者が主体となった小さな取組の実施	<ul style="list-style-type: none">✓ 地域住民・関係者のまちづくりへの参画✓ 静岡市アリーナの開業を見据えた土地利用の検討・推進	<ul style="list-style-type: none">✓ 地域住民・関係者が主体となったまちづくりの拡大✓ 民間投資の推進（土地の高度利用、環境に配慮した建物の建設等）



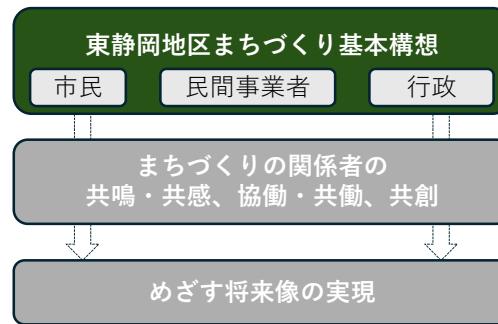
静岡市

■ 「東静岡地区まちづくり基本構想」策定の目的

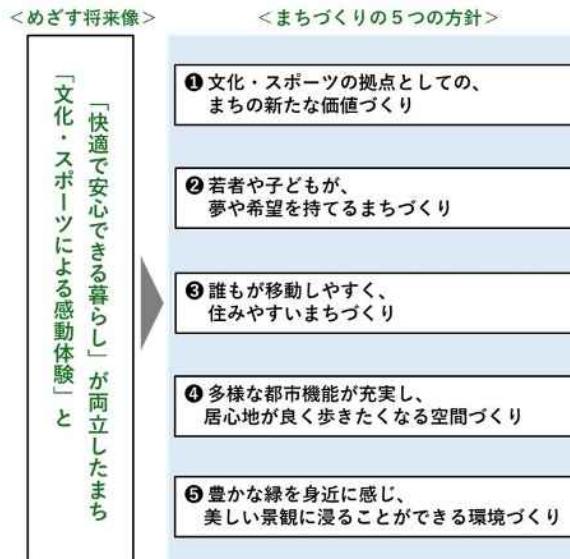
- 市民、民間事業者、行政が共に東静岡地区の将来像を描き、共有し、共創のまちづくりにつなげること

人口減少や地球温暖化といった時代の大きな変化を捉え、20年、30年、その先の未来も楽しく住みやすい東静岡地区にしていくためには、市民、民間事業者、行政など、まちづくりに関わる人達が、地区的将来像を描いて共有し、それに共鳴・共感する人の輪を広げながら協働・共働の取組を実践し、その取組が成功する体験を通して、社会全体による共創のまちづくりへつなげていくことが重要です。

そのために、まちづくりの関係者が行動するための指針となる「東静岡地区まちづくり基本構想」を策定します。



■ 基本構想の全体像

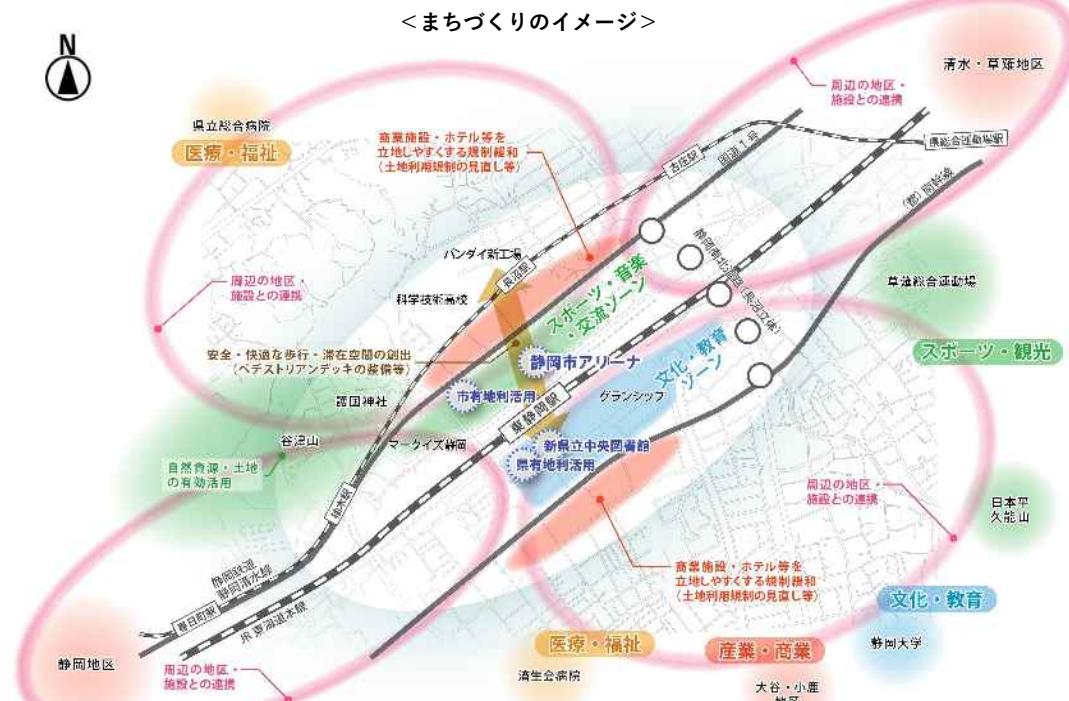


1. めざす将来像

「文化・スポーツによる感動体験」と「快適で安心できる暮らし」が両立したまち

～最先端の文化・スポーツ等による新たな交流・滞在の創出（非日常）と、
快適で安心して住み続けられる環境（日常）が共存する、非日常と日常が融合した都市拠点～

東静岡地区を中心として、鉄道や新たな交通システム等による東西南北の各地区と連携した面的なまちづくりを進め、その大きな経済社会効果（まちの魅力向上、文化振興、地域経済の活性化など）を市全体へと波及させていきます。



文化・スポーツによる感動体験

- ・たくさんの楽しい催しによりワクワク・ドキドキを体験
- ・未来に夢や希望を持てる



2. まちづくりの5つの方針

① 文化・スポーツの拠点としての、まちの新たな価値づくり

- 東静岡駅北口の静岡市アリーナや、南口の新県立中央図書館の整備を活かした、文化・スポーツ・音楽と触れ合える空間づくり
- 既存のグランシップを含めた各施設の連携と、施設を活用した人が集まる仕組みづくり
- 文化・スポーツの資源等の固有の魅力を活かした、選ばれるまちづくり 等



② 若者や子どもが、夢や希望を持てるまちづくり

- 若者・子育て世代が「住み続けたい、訪れたい」と感じ、進学や就職で一度静岡市を離れても、帰ってきたくなるまちづくり
- 市外・県外の方が「住んでみたい、訪れてみたい」と思えるまちづくり
- まち全体で「青春（自分のやりたいことに向かって真剣に取り組む状態）」を、育み・支え・応援できる空間・仕組みづくり
- 学生や子ども達と地域をつなぐ場での滞在・交流を通して、地域への関心や愛着を育てる（教育機関との連携等）



③ 誰もが移動しやすく、住みやすいまちづくり

- 鉄道・バスや自転車に加え、次世代モビリティ*、モビリティハブ*の導入も含めた、「誰もが移動しやすいまちづくり」（バリアフリー、ユニバーサルデザイン、利便性の高い公共交通、自転車の走行空間や駐輪スペースの確保等）
- 安全・安心で住みやすいまちづくり（AIオンデマンド交通*等の新たな技術・交通体系を活用した、医療・福祉施設や教育施設、産業・商業施設との連携）
- 東静岡駅～長沼駅の連絡動線の強化（ペデストリアンデッキの整備等）
- 地域の生活環境の保全に向けた、国道1号等の道路の渋滞対策

*次世代モビリティ：最新技術を用いて従来の交通手段や交通システムを進化させたもの
*モビリティハブ：公共交通機関やシェアモビリティ等複数のモビリティの乗り換えの拠点
*AIオンデマンド交通：AIを活用し、利用者予約に対しリアルタイムに最適配車を行なうシステム



④ 多様な都市機能が充実し、居心地が良く歩きたくなる空間づくり

- 土地の使い方やまちの密度のルールの柔軟な見直しによる良質な民間投資の誘発（ホテル・商業施設等の立地や、生活環境の改善）
- 低未利用地を活用した都市開発による魅力的な空間づくり
- 多様な人々が思い思いに過ごすことができる、人を中心で居心地が良く歩きたくなる空間づくり
- 多様な世代にとって住みやすい住環境を創出するため、暮らしを豊かにする都市機能の充実
- 災害時には安全に避難できる空間や設備の確保 等



⑤ 豊かな緑を感じ、美しい景観に浸ることができる環境づくり

- 健康で快適な生活・気候変動対策・生物多様性の確保等に向けた、緑地保全や緑化推進
- 市民が身近に自然と親しむ里山公園として、谷津山などの自然環境の保全や活用の推進
- 公共建築物や民間施設での敷地内緑化などによる、良質な都市緑地の創出
- 環境に配慮した都市開発事業の促進（ZEB*、再生可能エネルギーの導入等）
- 富士山や谷津山の眺望等の地域の特性を活かした、美しく風格ある景観の形成

*ZEB：省エネ、創エネによりエネルギー消費量の収支ゼロを目指す建物



3. まちづくりの主要プロジェクト

Ⓐ 静岡市アリーナ【該当する方針：①②④⑤】

■めざすアリーナ

- 最高峰のプロスポーツの試合や大きなコンサートなど、これまでの市内の施設では開催できなかった、さまざまな大型イベントを開催できる多目的アリーナ（8,000席以上）の実現をめざします。

■まちづくりにつながる多機能施設

- アリーナ単体ではなく、まちづくりにつながる多機能施設（宿泊施設・飲食・物販・教育施設等）をアリーナの付帯施設として検討します。

■防災施設としてのアリーナ

- 大きな災害のときは、広い屋内スペースを活かした支援物資の受け入れ、仕分けのほか、避難所として避難者の受け入れを担う防災拠点となります。



アリーナのイメージ（沖縄アリーナ）

Ⓑ 新県立中央図書館【該当する方針：①②④⑤】

- 静岡県は、現在の県立中央図書館を東静岡駅南口に移転する予定です。

- 県立中央図書館は、「静岡県立葵文庫」として1925年4月1日に開館し、2025年4月1日に100周年を迎えています。

- 新県立中央図書館は、デジタル技術の進展などを踏まえた新施設となる見込みです。

Ⓒ ペデストリアンデッキ【該当する方針：③④】

- 東静岡駅、長沼駅とアリーナをつなぎ、歩行者と自動車の動線を分けることで、来場者や住民が安全・快適に通行・滞在できるよう、ペデストリアンデッキ（高架の歩行者空間）を整備します。

Ⓓ 新たな交通システムの導入【該当する方針：③】

- 来訪者の地区内外の回遊を促すとともに、地区住民の買い物や通院など日常生活の利便性向上を図るために、AI（人工知能）を活用した、移動のニーズに合わせて運行する乗り合いの交通手段の導入をめざします。

Ⓔ 土地利用規制（都市計画）の見直し【該当する方針：①②④】

- 地区内の土地のより自由かつ高度な利用を可能とし、商業施設やホテル等が立地しやすくなるよう、国道1号沿線、南幹線沿線等の土地の使い方やまちの密度のルールをバランスよく変えていくことを検討します。

Ⓕ 里山公園（谷津山）の保全・活用【該当する方針：④】

- 谷津山は、市民が徒歩等でアクセスできる市街地に近接した貴重な自然環境であり、社会全体の力による「共創」により自然環境の保全と活用を進めています。

Ⓖ 低未利用地を活用した、まちの魅力を高める都市開発【今後、具現化していくプロジェクト】

- 地区内に点在する県有地・市有地等の低未利用地を活用し、県市連携による魅力的な都市空間の実現に向けた都市開発を進めます。



※出典：LIFE Streaming



※出典：東静岡「緑と水で織りなす新しい東海道」
子育て世話を集う、持続可能な理想都市
まちの魅力を高める都市開発のイメージ（アイデアコンペでの提案より）



※出典：ヒガシズ 際立つ！

■ 役割分担と今後の進め方

まちづくりを進めていくためには、市民や事業者等の様々な主体と行政がお互いに役割を明確にしつつ、連携・協力してまちづくりを進めていくことが必要です。



東静岡地区まちづくり基本構想（案）パブリックコメント 主な意見と対応

（1）意見募集期間

■ 令和7年6月10日（火）～7月10日（木）

（2）意見の概要

■ 総数 人数：299人 件数：439件

■ 内訳 賛成：92件 要望：340件 反対：7件

カテゴリ		賛成	要望	反対	合計
めざす将来像		17	12	0	29
まちづくりの 5つの方針	①文化・スポーツの拠点としての、 まちの新たな価値づくり	13	28	0	41
	②若者や子どもが、 夢や希望を持てるまちづくり	3	26	0	29
	③誰もが移動しやすく、 住みやすいまちづくり	7	60	0	67
	④多様な都市機能が充実し、 居心地が良く歩きたくなる空間づくり	4	42	0	46
	⑤豊かな緑を身近に感じ、 美しい景観に浸ることができる環境づくり	4	20	0	24
主要 プロジェクト	Ⓐ静岡市アリーナ	23	49	6	78
	Ⓑ新県立中央図書館	10	27	1	38
	Ⓒペデストリアンデッキ	6	29	0	35
	Ⓓ新たな交通システムの導入	1	13	0	14
	Ⓔ土地利用規制（都市計画）の見直し	2	1	0	3
	Ⓕ里山公園（谷津山）の保全・活用	1	2	0	3
	Ⓖ低未利用地を活用した、 まちの魅力を高める都市開発	0	5	0	5
その他		1	26	0	27
合計		92	340	7	439

(3) カテゴリー毎の主な意見（要約）

カテゴリー	主な意見（要約）
めざす将来像	<ul style="list-style-type: none"> ・アリーナを核としたまちづくりによる、<u>地域活性化</u>や<u>人口増加</u>を期待する（賛成） ・各地域のまちづくりが連携することで、<u>市全体が活性化</u>することを期待する（賛成）
まちづくりの5つの方針	<p>①文化・スポーツの拠点としての、まちの新たな価値づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東静岡が<u>新たな文化・スポーツの拠点</u>となることを期待する（賛成） ・観光客による<u>ゴミ捨てなどの治安悪化</u>が心配（要望）
	<p>②若者や子どもが、夢や希望を持てるまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公園など、子どもが自由に遊べる<u>スペース</u>がほしい（要望） ・<u>若者や子どもをターゲットとした主要プロジェクト</u>を増やしてほしい（要望）
	<p>③誰もが移動しやすく、住みやすいまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>交通渋滞</u>するがないよう、対策についても検討・実施してほしい（要望） ・バス等の<u>公共交通</u>を充実させてほしい（要望）
	<p>④多様な都市機能が充実し、居心地が良く歩きたくなる空間づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・買い物・子育てなど、<u>暮らしを豊かにする都市機能</u>を充実させてほしい（要望） ・多くの人が訪れたくなるような魅力的で<u>居心地の良い</u>空間づくりを進めてほしい（要望）
	<p>⑤豊かな緑を感じ、美しい景観に浸ることができる環境づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>自然の豊かさを保全・活用</u>することや、<u>環境に配慮した都市開発</u>が重要と考える（賛成） ・富士山や谷津山の眺望に配慮してほしい（要望）
主要プロジェクト	<p>Ⓐ静岡市アリーナ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アリーナの複合施設または周辺施設として、宿泊や飲食ができる施設があるとよい（要望） ・アリーナよりも<u>生活サービスに税金を使うべき</u>（反対）
	<p>Ⓑ新県立中央図書館</p> <ul style="list-style-type: none"> ・従来の図書館の枠を越えた、<u>学び・交流・創造の機能</u>に期待する（賛成） ・<u>欲しい情報をすぐに入手できる時代</u>に、図書館サービスを充実させることにあまり効果がないと考える（反対）
	<p>Ⓒペデストリアンデッキ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・猛暑への対策や雨に濡れないためにペデストリアンデッキに<u>屋根を付けてほしい</u>（要望） ・単なる通路ではなく、<u>交流・滞在できる空間</u>の設置や、<u>商業施設との接続</u>をしてほしい（要望）
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくりの進行状況を<u>webサイト</u>等で分かるようにしてほしい（要望）

(4) 「東静岡地区まちづくり基本構想」への反映

意見	反映内容
<p>1 【マナー違反対策】</p> <p>アリーナでスポーツなどの試合やコンサートが開かれる場合多くの人が東静岡に来る。その際に<u>マナーの悪い人によってゴミのポイ捨てなどで起きる治安悪化の対策</u>はどのように考えていますか。</p>	<p>観光客によるゴミ捨てや騒音などの<u>マナー違反行為</u>について、<u>ハード・ソフトの両面から対策</u>を講じることで、周辺環境に配慮することについて、基本構想 p15（まちづくりの方針①）に記載しました。</p> <p>例えば、ゴミのポイ捨てなど、アリーナ来場者のマナー違反によって生じる問題については、その状況に応じて<u>市や運営事業者が対応します</u>。</p>
<p>2 【都市機能の充実】</p> <p>東静岡地区に<u>医療施設や子育てをしやすい環境</u>を整えるべきだと考える。そうすることにより、医療が必要な人や子育て世代の若者が集まってくると思う。</p> <p>実際、このような環境が整った場所では住みたいまちランキングなどにも上がり、住む人が増えている。</p>	<p>多様な世代にとって住みやすい住環境を創出するために、<u>暮らしを豊かにする都市機能の充実</u>について、基本構想 p18（まちづくりの方針④）に記載しました。</p> <p><u>土地利用規制の柔軟な見直しや、立地適正化計画</u>による都市機能の誘導等により、必要な生活サービスが身近にあり、豊かで心地良い生活が送れるまちづくりを進めます。</p>
<p>3 【景観形成】</p> <p>駅のコンコースからみえる<u>雄大な富士山</u>について、アリーナ、そのほかの建物でこの宝を損なわないようにしてほしい。</p> <p>東京から昨年引っ越してきた「静岡はいいなあ」の「ちびまる子ちゃん」のせりふを思わず言いたくなりました。</p> <p>このほか、東静岡駅周辺には長沼大橋も富士山の眺めが良いポイントです。</p>	<p><u>富士山や谷津山の眺望等の地域の特性を活かした、美しく風格ある景観の形成</u>を進めることについて、基本構想 p19（まちづくりの方針⑤）に記載しました。</p> <p><u>景観計画の重点地区（東静岡駅周辺地区）</u>として、景観形成方針や景観形成基準等に基づき、<u>建築物・工作物の形態意匠等を規制・誘導</u>することで、良好な景観の形成を進めます。</p>
<p>4 【アリーナ複合施設】</p> <p>アリーナとホテルを一体型とするような考え方をもって構想をした方がいい。宿泊客が満足できるような、マークイズとは違う施設の誘致など、主催者共に満足できるような一体感が持てるもの。</p>	<p>アリーナ単体ではなく、<u>まちづくりにつながる多機能施設（宿泊施設・飲食・物販等）</u>について、基本構想 p21（主要プロジェクトⒶ）に記載しました。</p> <p>アリーナを整備・運営する事業者が、アリーナだけでなく、まちづくりにつながる多機能施設の整備・運営を行うことを可能とすることで、<u>民間事業者のアイデアやノウハウを活かした複合的な機能を持つ施設の提案</u>を求めます。</p>

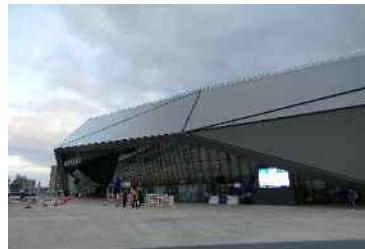
	意見	反映内容
5	<p>【web での情報発信】</p> <p>まちづくりの 5 つの方針の中の「若者や子どもが、夢や希望を持てるまちづくり」を達成させるために、<u>まちづくりの進行状況を常に知ることが出来るよう、専用のサイトやアプリを設置する</u>のが良いと考えます。</p>	<p>まちづくりの進行状況が市民等に幅広く伝わるよう、<u>web サイト等によるまちづくりに関する情報発信</u>に取り組むことについて、基本構想 p28（役割分担と今後の進め方）に記載しました。</p>

静岡市アリーナ整備・運営事業 想定スケジュール

1 事業者の選定の手順及びスケジュール

年月（予定）	内 容
<u>2025年 8月8日</u>	<u>入札公告、入札説明書等の公表・交付</u>
2025年 8月8日～8月29日	入札説明書等に関する質問の受付（第1回）
2025年 8月21日	入札説明書等に関する説明会、現地見学会
2025年 9月12日	入札説明書等に関する質問回答の公表（第1回）
2025年 9月29日～10月3日	参加表明書の受付、参加資格の確認
2025年10月10日	資格審査結果の通知
2025年10月24日	入札説明書等に関する個別対話
2025年11月5日	個別対話の結果の公表
2025年11月5日～11月14日	入札説明書等に関する質問の受付（第2回）
2025年11月28日	入札説明書等に関する質問回答の公表（第2回）
2026年 1月30日	事業提案書の提出の締切
<u>2026年 3月</u>	<u>落札者の決定及び公表</u>
2026年 3月	落札者との基本協定の締結
2026年 4月	事業者との特定事業契約の仮契約の締結
2026年 7月	事業者との特定事業契約の締結

→落札者の公表とともに、アリーナの外観・内観イメージなど、事業提案の概要を公表し、東静岡にできるアリーナの具体像を、市民の皆様に初めてお示しするとともに、機運醸成に取り組んでいきます。



アリーナのイメージ
(SAGAアリーナ)



アリーナのイメージ
(沖縄アリーナ)

2 事業スケジュール（予定）

年月（予定）	内 容
<u>2026年7月</u>	<u>特定事業契約の締結</u>
2026年7月～2030年3月	設計・建設・開業準備期間・施設の引渡し
<u>2030年4月（※1）</u>	<u>開業（運営開始）</u>
2030年4月（※1）～2060年3月（※2）	維持管理・運営期間

（※1）開業日（運営開始日）は、事業者の提案に基づき、市と事業者との協議により決定します。

（※2）今回、事業者公募を行っている「静岡市アリーナ整備・運営事業」の事業者との契約期間（事業期間）であり、アリーナはその後も運営を継続する予定です。

■ 「東静岡地区まちづくり基本構想」での位置づけ

主要プロジェクト © ペデストリアンデッキ

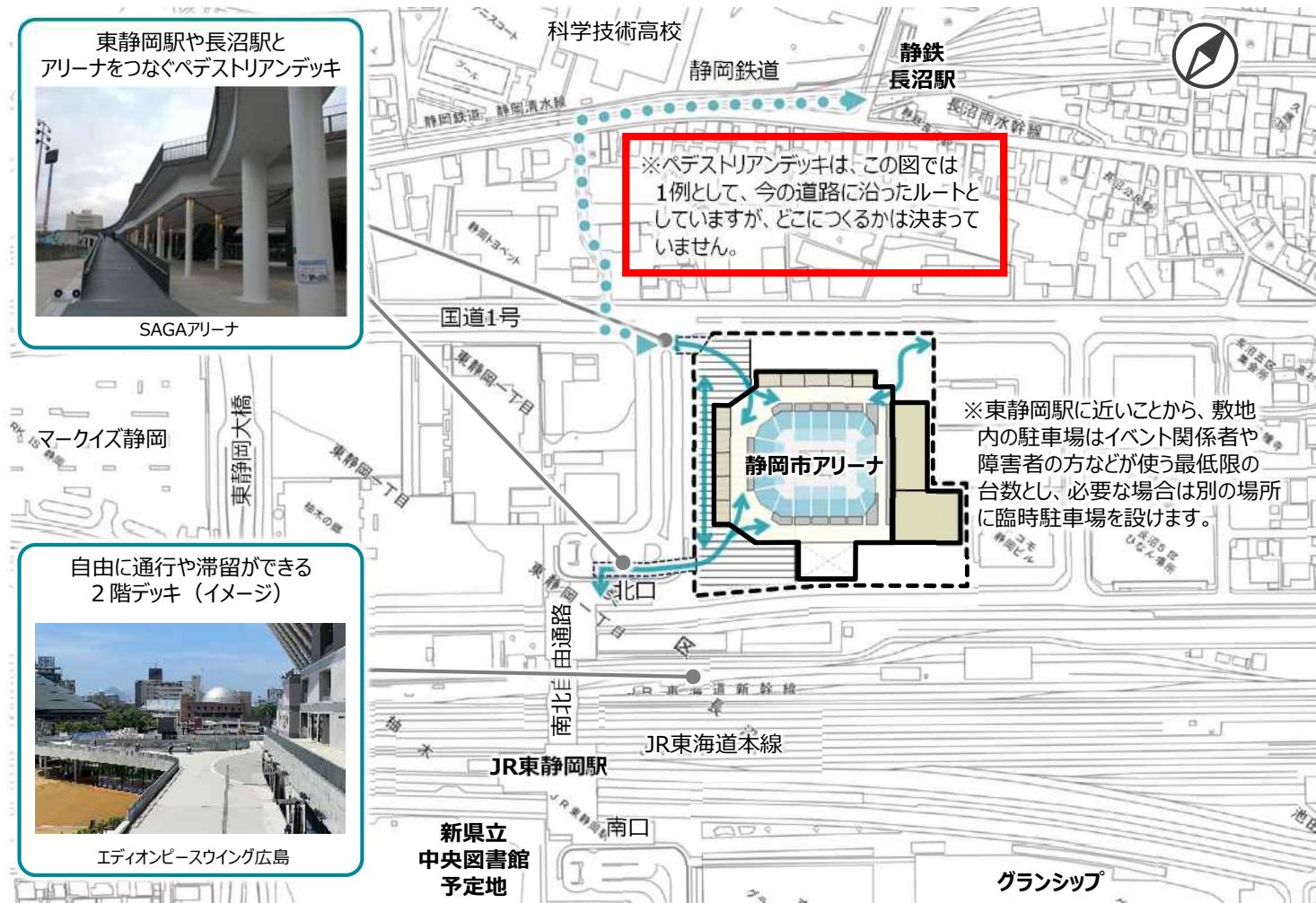
■まちをつなぐペデストリアンデッキ

- ・ 東静岡駅、長沼駅とアリーナをつなぎ、歩行者と自動車の動線を分けることで、来場者や住民が**安全・快適に通行・滞在**できるようペデストリアンデッキ（高架の歩行者空間）を整備します。



■ペデストリアンデッキのルートの選定

- 東静岡地区のめざす姿を踏まえ、
事業費や交通利便性のほか、**交
流・滞在の創出や住環境との共存**
などの観点から、最適なルートを
選定します。



■ペデストリアンデッキのルート案

- ・ペデストリアンデッキのルート案の決定にあたっては、関係する地権者の意向が重要であり、現在、地権者との調整に取り組んでいる。
- ・アリーナ敷地内のペデストリアンデッキと一体的な設計を進めるために、アリーナ事業者を決定する2026年3月までに、ルート案を公表できるよう取り組んでいく。

■静岡鉄道長沼駅との接続（静岡市の見解・取組）

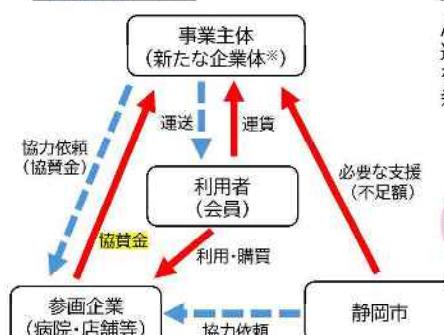
- ・現在の長沼駅は、施設の老朽化やバリアフリー化が図られていないなどの課題があり、これらを解消するためのリニューアルが必要と認識している。
- ・リニューアル後の長沼駅は、駅舎がペデストリアンデッキと接続する形になることを想定している。
- ・ペデストリアンデッキと一体となった駅舎が実現できるよう検討を進めており、現在、長沼駅を所有する静岡鉄道との協議を進めている。

【運行概要(予定)】

運行方式	区域運行(AI オンデマンド交通・停留所間運行)
運行エリア	静岡市東静岡駅周辺地区(古庄・長沼地区(北側),曲金・豊田地区(南側)2 エリア)
準備期間	令和8年3月 31日(火)まで
運行期間	令和8年4月1日(水)から令和9年3月 31日(水)まで
運行日	平日のみ(土日祝日運休)
運行時間	8時~16 時 30 分
車両	定員 10 人以下の車両2台(各地区1台ずつ)
運賃	1乗車あたり 400 円 ※エリア外停留所利用は600円 回数券
予約方法	インターネット及び電話
決済方法	キャッシュレス決済及び現金
停留所	病院、福祉施設、商業施設、公共施設、既存公共交通接続点など100か所程度 エリア外停留所1箇所(県立総合病院)
受託者	静岡市医療福祉 AI オンデマンド地域交通実証業務事業者グループ 代表事業者:しづてつジャストライン株式会社 株式会社アイシン、株式会社静岡銀行、静岡鉄道株式会社 静鉄タクシー株式会社、トヨタユナイテッド静岡株式会社

1年間の実証実験→本運行を目指す。

«事業イメージ»

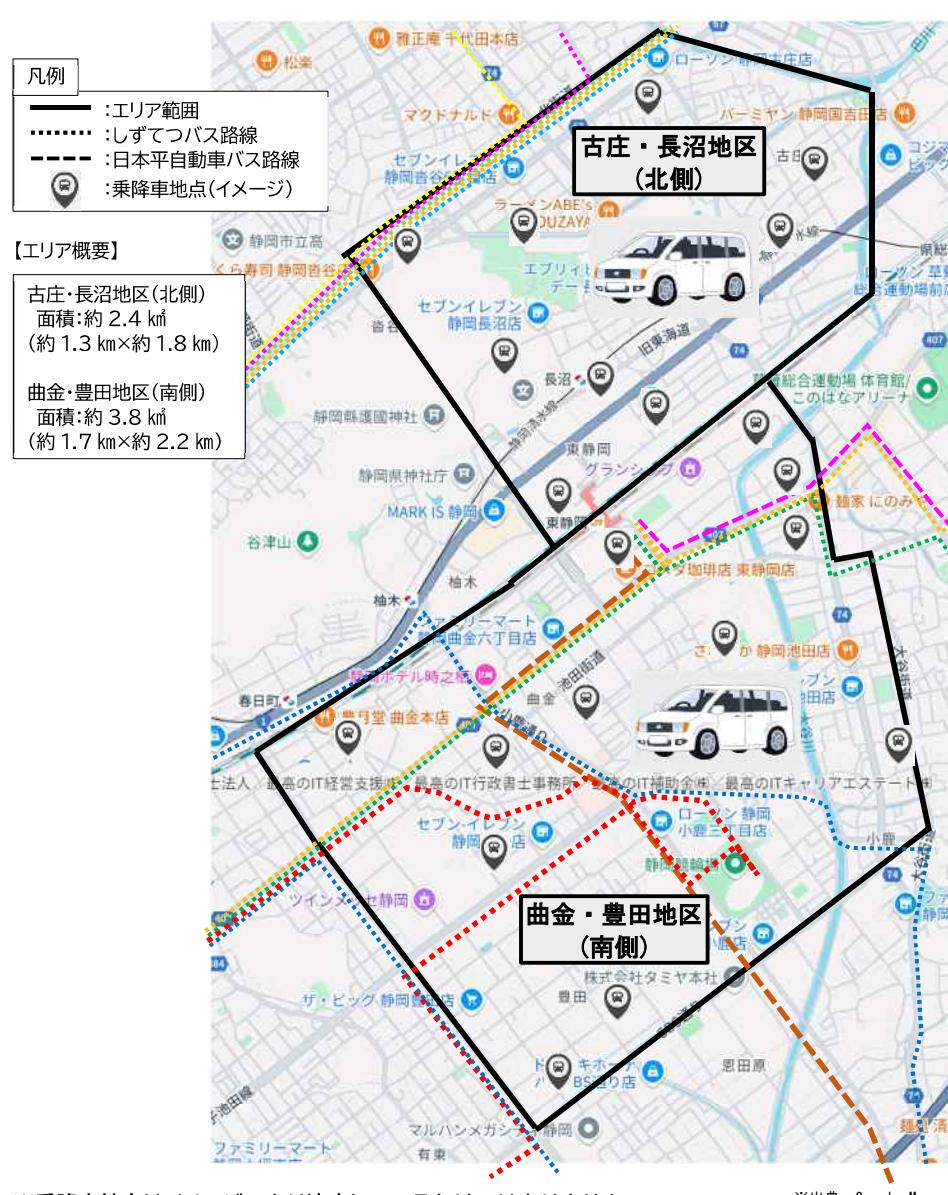


«AIオンデマンド交通»

AIを活用した効率的な配車により、利用者予約に対して、運行車両の最適配置ルートの最適化、乗り合いの最適な組み合わせ等を行なうシステム。運行方法や運行ダイヤ、発着地の停留所をニーズに合わせて設定する交通手段。



【運行エリア図】



谷津山での取組状況について

251222第5回東静岡地区まちづくり協議会 資料8

1.市民共創で保全活用に取り組む「里山公園」

- 谷津山は身近に自然や歴史を楽しめる里山で、地権者や市民団体により貴重な自然環境が守られてきました。
- 最近では東静岡駅周辺のまちづくりや谷津山でのハイキングイベント等を通じて、谷津山の保全活用の機運が高まっており、市民共創で取り組む「里山公園」として、官民が連携して様々な活動を実施しています。



保全活用に関わる市民団体や地権者との情報共有のための会議を開催



地域協働による散策道などの環境整備



登って魅力を体験するイベント
谷津山ハイキング



市民団体により長年実施されてきた放任竹林対策活動

2.谷津山の現状と課題

- 中心市街地に近く、尾根沿いからの眺望が楽しめるとともに、古墳や寺社などの歴史資源も有しています。
- 一方で、お茶や果樹などの農地利用から次第に管理の手が入らない土地が増え、竹林が拡大しています。
- 細かく分かれた土地の大部分は民地（個人所有）であるため、保全や活用の手が届きにくい課題があります。



昔はお茶やみかんを中心とした農地として利用されていた



次第に農地手が入らなくなり代わりに竹林が拡大



市民ボランティアの活動により明るい林内に改善した箇所も



3.谷津山の保全と活用の考え方

- 自然環境を良好に保全するとともに、市民が身近に親しめる緑地として活用し、谷津山の魅力を高めます。
- 持続的に保全・活用が図られるよう、市民・事業者・行政等の共創の基盤をつくりながら取り組みます。



Point 保全の考え方

- ① 里山林の健全な管理と放任竹林対策の推進
- ② 身近な動植物の生息環境の保全
- ③ 歴史資源と一体となった自然環境の保全



Point 活用の考え方

- ① 地形を活かした眺望の確保
- ② 自然に親しみ散策や滞在を楽しむ環境づくり
- ③ 自然や歴史を体験・学ぶ場としての活用



4.谷津山保全活用方針（案）の検討

- これまで谷津山の保全や活用に関わってきた地権者や市民団体の人々とともに、谷津山の将来像や取組の方向性を検討し、谷津山保全活用方針（案）を現在検討しています。
- 今後、方針（案）について地域の皆さまのご意見をいただきながら、方向性を検討していく予定です。

【令和7年度の取組】

保全活用検討会議※1での調査・検討

地権者※2への意向調査

イベントや活動等での意見募集

【谷津山保全活用方針の役割】

保全活用に関わる人々の“共通の思い”を整理したもの

あらたに保全活用に関わってもらうよう促すもの

谷津山保全活用方針
保全 活用

この方針にもとづいた取組が進むことで・・・

谷津山の魅力に共感する人が増える ↓ 協働の取組が進みさらに魅力が高まる

谷津山の環境が保全され、魅力ある森としてこれからの世代に引き継がれていく

谷津山保全活用方針（案）は現在検討中です。
今後、地域の皆さまよりご意見を伺う予定です。

東静岡2号調整池の活用について

251222第5回東静岡地区まちづくり協議会 資料9

東静岡2号調整池（平成27年：東静岡駅周辺土地区画整理事業により整備）

浸水被害を防ぐため、集中豪雨等の大雨が降った際に、雨水を一時的に貯めることにより、河川への雨水の流出を抑制する

原則として、住民の生活又は事業のために、やむを得ない場合に限り、占用を許可

- ・平常時の活用ニーズの高まり
- ・民間事業者により活用することで、次の効果を期待
 - ①行政の維持管理負担や土地使用料収入による財政負担の軽減
 - ②周辺地域の新たな魅力づくりや活性化への貢献

活用の検討

R4～R6 社会実験、民間企業へのヒアリングの実施

R6 調整池活用のための制度策定

(静岡市法定外公共物(河川)土地利活用事業実施要綱)

R7 東静岡2号調整池活用に係る民間事業者公募の実施

○東静岡2号調整池の活用条件設定

- ・調整池の機能を損なわないこと
- ・「東静岡地区まちづくり基本構想」と整合の取れた、地域との連携・交流やにぎわい創出 等、地域の活性化や発展が期待できる内容であること
- ・周辺道路の渋滞・違法駐車対策のため、駐車場(40台程度)を設けること

2025年8月公募・11月活用事業者選定 ※現在、活用事業者において占用許可申請手続き中

活用事業者:株式会社ジャパンクリノベーション

※活用内容は、占用許可後公表予定

今後、JR東静岡北口にある、東静岡1号調整池についても、駐車場としての活用に向けた民間事業者の公募を実施予定



社会実験:車いすソフトボール体験会



社会実験:マルシェ



社会実験:フットサルコートの設置

BANDAI NAMCO

Fun for All into the Future

BANDAI**PRESS RELEASE****株式会社BANDAI SPIRITS**

2025年8月20日

実物大ガンダムサイズのガンプラモニュメントや4,300体以上のプラモデル製品を展示

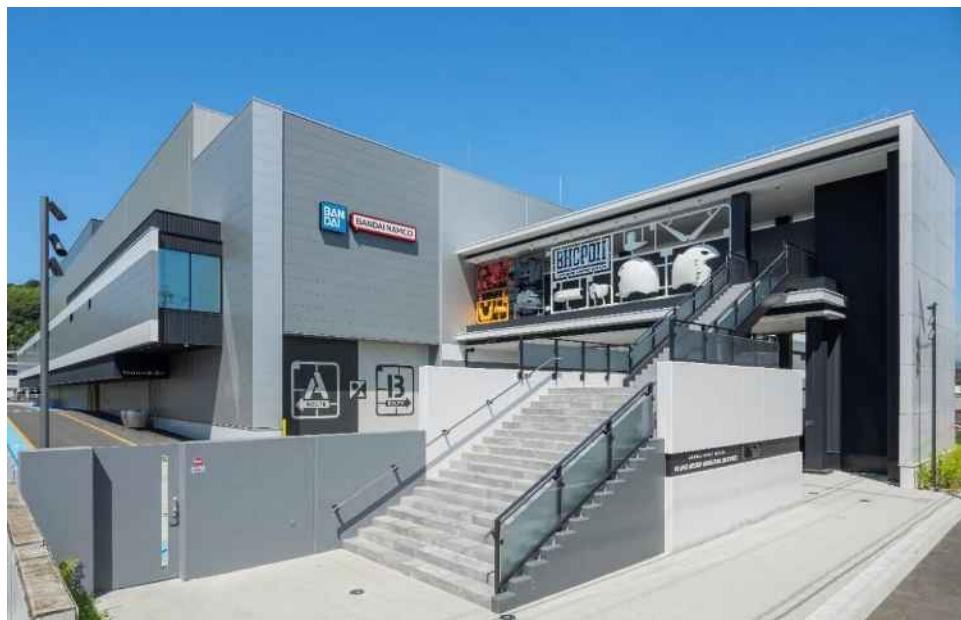
プラモデルの企画開発体験ミュージアム「BHC PDII MUSEUM」を初公開

静岡市「バンダイホビーセンター」新工場内に9月2日（火）オープン

株式会社 BANDAI SPIRITS（代表取締役社長：榎原博、本社：東京都港区）は、プラモデル生産拠点 バンダイホビーセンター新工場内の「BHC PDII MUSEUM」（静岡県静岡市）の2025年9月2日（火）のオープンに先駆け、本日報道関係者に内部を初公開しました。

ミュージアムは総床面積約1500m²で新工場の2、3階の一部に設置。「ものづくりの魅力発信基地」として、稼働中の工場見学のほか、ガンプラを含むプラモデルの企画開発体験が可能です。企画、設計、金型、成形、パッケージデザインなどのプラモデルの一連の製造工程をタッチパネル上で体験でき、自分でデザインしたパッケージ箱をお持ち帰りいただけます。実物大ガンダムサイズのガンプラモニュメントや、4,300体以上のプラモデル製品の展示、プラスチック成形の実演も見どころです。

バンダイホビーセンター新工場は、プラモデルの生産体制を構築するとともに、静岡からものづくりの魅力を発信してまいります。



実物大ガンダムサイズ（頭部）のガンプラモニュメントを展示
プラモデルのランナー（枠の部分）にペーツがついた“組み立て前”的デザインで
「ガンプラが生まれる場所」をイメージした（約14.2m×約3.6m）



「プラモデルの製造工程を展示」



「「プラデザイナー体験」を楽しめる」

次項より「BHC PDII MUSEUM」の詳細を紹介します。

●「BHC PDII MUSEUM」概要

名称	BANDAI HOBBY CENTER PLAMO DESIGN INDUSTRIAL INSTITUTE MUSEUM バンダイホビーセンター プラモデザインインダストリアルインスティチュートミュージアム (略称 : BHC PDII MUSEUM / 略称読み : バンダイホビーセンター ピーディーツーミュージアム)
所在地	〒420-0813 静岡県静岡市葵区長沼 500-15 バンダイホビーセンター新工場 2階・3階
営業時間	9:00~17:30
所要時間	約 90 分
入場料	大人 13 歳以上 : 2,860 円 / 小人 : 1,100 円 / 未就学児 : 無料 (税 10%込)
公式サイト	https://bhcpdii.bandai-hobby.net

※当施設は完全予約制です。予約方法、休館日、来場者限定オンライングッズ販売などの詳細は公式サイトをご確認ください。

モニュメント・エントランス



ガンプラモニュメント



エントランス内に実物大の多色成形機の模型を設置

学ぶ -スタディエリア-

ガンプラをはじめとするプラモデルが出来るまでの一連の工程を紹介します。作品再現性や組み立てやすさ、高品質への追求など、バンダイホビーセンターのものづくりへのこだわりをわかりやすく展示します。



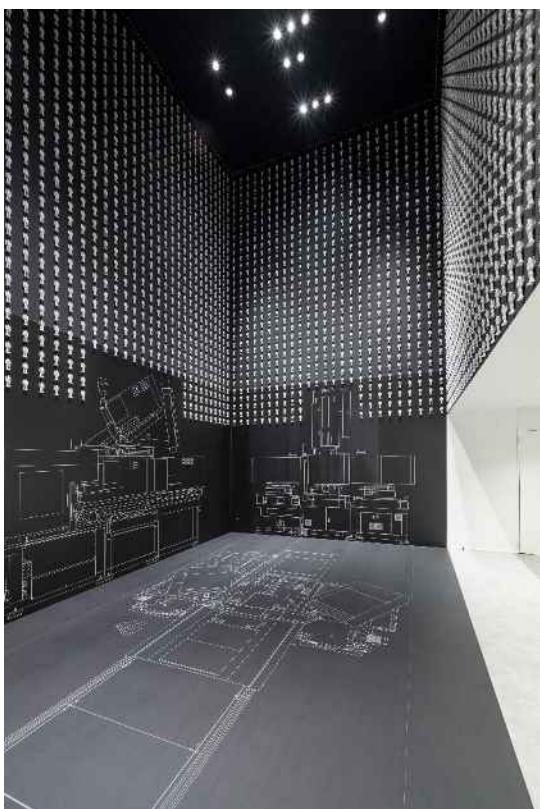
商品企画書がずらりと並ぶデザインロード



プラモデルの製造工程を解説
バンダイホビーセンターならではの緻密なこだわりも紹介



約 15m×約 2.6mの大型スクリーンで、プラモデル製造の面白さを紹介



新工場では多色成形機 1台あたり1日で約4,000枚のランナーが
製造可能
このエリアでは、イベント会場などでファンの皆さんに組み立てていただき
たガンプラ4,000体を展示する
床面と壁面には実物サイズの多色成形機が描かれている

体験する -ラボラトリーエリア-

来場者が“プラモデザイナー”になりきって、製品を生み出すまでの一連の工程を体験できます。来場者は体験用 ID カードを使って、タッチパネルで自分だけのプラモデルの形や色を決定し、そのプラモデルの金型設計やパッケージデザインなどの体験をしていきます。“プラモデザイナー”として自分で作り上げたプラモデル企画をもとにパッケージ箱を作り、持ち帰ることが可能です。実物の成形機でプラスチック成形を実演、成形品をその場でプレゼントします。



体験用 ID カード



タッチパネルでプラモデルの形や色を決めていく



自分で企画したプラモデルをもとに、パッケージデザインにチャレンジ
オリジナルのパッケージ箱を作成し、持ち帰れる



ミュージアム内でプラスチック成形を実演、ミュージアム限定の成形品（写真右）を1つもらえる



プラモデルを多数展示
各エリアの窓からは稼働中の新工場が見学できる



ウォールには写真や映像、フォトスポットを設置

●バンダイホビーセンター新工場について

バンダイホビーセンター新工場は安定的な生産体制を確保することを目的に、2025年7月24日（木）に稼働を開始しました。株式会社 BANDAI SPIRITS では、これまでバンダイホビーセンター新館の増築（2020年12月稼働開始）や、グループ会社・パートナー企業の協力によりプラモデル生産機能の強化を図ってきました。それらのリソースと新工場の生産能力を総合的に活用し、2026年度の新工場本格稼働時には全体で2023年度比約35%の増産が可能になる見込みです。



名称	BANDAI HOBBY CENTER PLAMO DESIGN INDUSTRIAL INSTITUTE バンダイホビーセンター プラモデザインインダストリアルインスティチュート (略称：BHC PDII／略称読み：バンダイホビーセンター ピーディーアイ)
敷地面積	約 14,724 m ²
延床面積	約 18,076 m ² 地上 3 階建て
成形機台数	多色成形機 10 台、単色成形機 84 台 ※2026 年度の本格稼働時（予定）

・バンダイホビーセンターについて

バンダイホビーセンターは、株式会社 BANDAI SPIRITS のプラモデルの生産拠点として、静岡県静岡市葵区長沼に2006年に竣工しました。ガンプラシリーズをはじめ、多彩なプラモデル製品の企画・開発・生産を行っています。1つの金型に4つの色、4つの異なる素材を同時に成形できる自社オリジナルの成形機「4色射出成形機（多色成形機の一種）」を使用し、プラモデルの作りやすさや組立後のカラーリング再現の追求を行っています。

また、「ガンプラリサイクルプロジェクト」や使用電力量の低減などの環境配慮にも積極的に取り組み、新工場に太陽光パネルを1,080枚設置、バンダイホビーセンター全体では合計1,858枚の太陽光パネルを設置しています。

【BANDAI SPIRITS 公式オウンドメディア「BANDAI SPIRITS STORY」】

「BANDAI SPIRITS STORY」は、モノづくりへの情熱や、日々の活動で大切にしている想いをつぶる BANDAI SPIRITS 公式オウンドメディアコンテンツです。今回は、前後編で「BHC PDII」のコンセプト作りから携わったメンバーの想いをお届けします。（後編は 9 月 2 日（火）公開予定です。）

<https://www.bandaispirits.co.jp/story/005/>



【公式サイト】

「BHC PDII MUSEUM」公式サイト：<https://bhcpdii.bandai-hobby.net>

バンダイホビーセンター公式サイト：<https://www.bandaispirits.co.jp/hobbycenter/>

バンダイホビーサイト：<https://bandai-hobby.net/>

株式会社 BANDAI SPIRITS 公式サイト：<https://www.bandaispirits.co.jp/>

※プレスリリースの内容は、発表日現在のものであり、予告なく変更する場合があります。

※画像はイメージです。実際と異なる場合がございます。

©創通・サンライズ

新県立中央図書館整備見直しの方向性（概要版）

1 検討の前提

- ①新県立中央図書館を東静岡地区に整備する
- ②静岡市と進めてきた「まちづくりの方向性」を尊重する
- ③厳しい財政状況を踏まえ、県の財政負担を軽減する

2 図書館機能の見直し

（1）基本的な考え方

- ・社会情勢の大きな変化を踏まえ、図書館機能を見直し
- ・基本的なコンセプトは踏まえつつ、「経済性」や「機能性」を重視し、サービス水準と費用対効果に優れた施設を目指す

（2）見直しの方向性

ア デジタル技術の活用

- ・県民が、住んでいる場所や時間を問わず、利用できる環境を目指す
- ・利便性が高く、効率的に運営される図書館を実現

イ 市町立図書館との役割分担

- ・県立図書館の役割は「市町立図書館の補完・支援」を基本
- ・市町立図書館の機能と重複しないように見直し
- ・蔵書を相互に利活用する「図書館ネットワーク」を強化

ウ 収蔵能力

- ・今後30年間で見込まれる150万冊程度を上限に見直し

エ 蔵書の保管方法

- ・書庫の分散化を含め、最適な手法を選択

オ 新たな交流と価値の創出

- ・東静岡地区全体の機能を最適化する観点から機能を見直し

3 最適な事業手法・東静岡地区のまちづくり

（1）基本的な考え方

- ・静岡市とのまちづくりの一体性を重視
- ・民間活力の最大限の導入を軸として、県の財政負担の軽減を目指す
- ・県有地の一体的な活用（2.43ヘクタール）を基本

（2）事業手法の方向性

- ・最適な施設の配置や整備手法（例えばPPP／PFI、定期借地権方式による公募など）を検討

4 今後のスケジュール

- ・「見直しの方向性」に沿って、具体的な機能や整備手法などを決定
- ・令和10年代中頃～後半の開館を目指す

＜現計画との比較＞

区分	現計画	見直しの方向性
建設地	東静岡駅南口県有地 東側（0.97ha）	県有地全体（2.43ha）で 最適な配置を検討
施設規模	19,800m ²	縮小
整備手法	県直営方式	民間活力の導入を軸として 最適な整備手法を検討 （PPP／PFI、 定期借地による公募など）
事業費	298億円	削減
開館時期	令和10年度	令和10年代中頃～後半
デジタル 技術の活用	利便性向上ほか (ICタグなど)	積極的に導入 (電子書籍など)
市町立図書館 との役割分担	指導・助言、 職員研修ほか	機能が重複しないよう見直し 図書館ネットワークを強化
収蔵能力	200万冊	150万冊程度を上限
蔵書の 保管方法	一体保管	書庫の分散化を含め 最適な手法を選択
新たな交流と 価値の創出	セミナールーム カフェ、ラボほか	東静岡地区全体の機能を 最適化する観点から見直し

<参考>

県立中央図書館の概要

- ・建築から56年が経過し、施設や設備の老朽化が著しく進行
- ・蔵書数が増加し、収蔵能力がひっ迫

区分	内容	備考
所在地	静岡市駿河区谷田	
建設年	昭和44年3月	R C造
延床面積	8,816m ²	地上3階 地下1階
主な施設	閲覧室、書庫、子ども図書研究室、事務室、電算室、講堂ほか	
蔵書冊数	97.5万冊 (開架11.5万+閉架86万冊)	R7.3.31現在



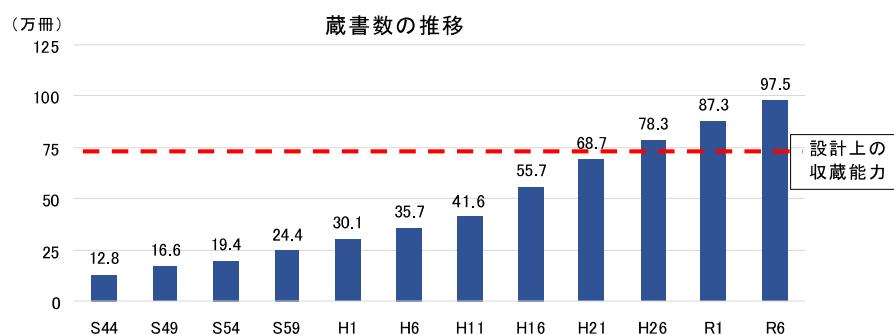
(県立中央図書館・全景)



(蔵書の荷重等でひび割れた天井・梁)



(旧埋蔵文化財センターに一時保管している蔵書)



東静岡地区の状況

- ・「東静岡地区まちづくり基本構想（静岡市）」が目指す将来像は、「文化・スポーツによる感動体験」と「快適で安心できる暮らし」が両立したまち
- ・主要プロジェクトの一つに、新県立中央図書館の整備を位置付け
- ・東静岡駅北側に、静岡市が「新アリーナ」を建設予定（令和12年春）



<東静岡駅南口県有地>



新県立中央図書館整備見直しの方向性

新県立中央図書館整備等 P T
令和7年12月

1 見直しの経緯

- ・近年の人手不足や物価高騰等に伴い、建築工事などの入札が不調（R6.11月）となり、再入札に向けて、手続きを進めていた。
- ・その後、財源である国の交付金の見通しが大きく変わったことに伴い、一旦立ち止まり、整備計画を見直すことが必要になった。（R7.6月）

2 見直しの手法

- ・多角的な視点で見直しを進めるため、部局横断の庁内プロジェクトチーム（教育委員会、企画部、スポーツ・文化観光部）を設置し、図書館に求められる機能や、最適な事業手法などを再検討した。
- ・また、図書館機能について、有識者の意見を聴取したほか、民間事業者から東静岡地区のポテンシャルや事業手法のヒアリングなどを実施した。

3 図書館整備の必要性

- ・現在の県立中央図書館（静岡市駿河区谷田）は、昭和44年に建設されてから56年が経過し、施設や設備の老朽化が著しく進行している。
- ・また、図書館は、県民の生涯にわたる学習や、本県の発展を支える「知のインフラ」として、不可欠な社会資本である。
- ・県議会をはじめ、様々な皆様と積み重ねてきたこれまでの議論も踏まえ、厳しい財政状況ではあるが、新県立中央図書館の整備は、機能や整備手法などを見直した上で、進める。

4 見直しの方向性

整備計画の見直しにあたっては、以下の点を検討の前提とする。

- ①新県立中央図書館を東静岡地区に整備する
- ②静岡市と進めてきた「まちづくりの方向性」を尊重する
- ③厳しい財政状況を踏まえ、県の財政負担を軽減する

(1) 図書館機能の見直し

①有識者等からのヒアリングの状況

ア 有識者等の意見

- ・県立図書館に求められる役割として、市町立図書館のサポートや、地域資料の保管・収集、デジタル化により県内を繋げることなどが挙げられた。
- ・機能面では、ICタグや自動書庫などのデジタル技術の活用による効率化や、県内の図書館ネットワークを活用してサービスを提供する「持続可能な静岡県公共図書館のモデル」を目指すべきとの意見があった。

イ 利用者の意見

- ・東静岡駅周辺の立地面を評価する意見がある一方で、自然が豊富で静寂がある現在の場所に対する評価や、現図書館をサテライトとして残して欲しいとの声があった。
- ・また、外観よりも機能を重視して欲しいとの意見や、新図書館の早期整備を希望する声もあった。

②見直しの方向性

ア 基本的な考え方

- ・基本構想の策定から7年が経過し、その間、少子高齢化の進行、コロナ禍におけるデジタル化の加速、人件費や物価の高騰など、社会情勢が大きく変化したため、図書館機能の見直しを行う。

- ・その際には、新県立中央図書館の基本的なコンセプトは踏まえつつ、「経済性」や「機能性」を重視し、サービス水準と費用対効果に優れた施設を目指す。

イ デジタル技術の活用

- ・電子書籍やオンラインサービスを積極的に導入するなど、県民が住んでいる場所や時間を問わず、図書館を利用できる環境を目指す。
- ・また I C タグを活用した検索機能の強化など、利便性が高く、最小限の職員で効率的に運営される図書館を実現する。

ウ 市町立図書館との役割分担

- ・県立図書館の役割は、「市町立図書館の補完・支援」を基本とする。
- ・市町立図書館では収集が難しい専門書や学術書、郷土資料などを収集し、県内全域の住民に提供する。
- ・また、市町図書館への指導・助言、職員研修、県内図書館の連絡調整に機能を重点化するなど、市町図書館の機能と重複しないように見直す。
- ・人口減少社会が進行する中、県と市町が適切に役割分担し、相互に連携しながら、最適な図書館サービスを提供するため、県と市町立図書館の蔵書を相互に利活用（貸出し）する「図書館ネットワーク」を強化する。

エ 収蔵能力

- ・図書館の運営効率を高めるため、利用者ニーズに即した購入書籍の重点化や、蔵書の除籍、資料のデジタル化などを進める。
- ・収蔵能力の水準は、将来、社会情勢や A I などの加速化するデジタル技術の革新などの大きな変化も想定されるため、今後 30 年間で見込まれる収蔵能力 150 万冊程度を上限に見直す。

オ 蔵書の保管方法

- ・新県立中央図書館の施設規模は、東静岡地区全体のまちづくり（民間施設を含めた地区的高度利用）、施設コスト、ファシリティマネジメントなどの観点から、抑制することが重要である。
- ・このため、蔵書の保管方法については、書庫の分散化（例えば、利用頻度が低い蔵書を低コストで保管可能な別の場所で保管）を含め、最適な手法を選択する。

カ 新たな交流と価値の創出

- ・図書館は、書籍の貸出しや閲覧に加え、新たな交流や価値を創出する機能を果たすことが重要である。
- ・現計画のコンセプト（未来につながる新しいタイプの図書館）を踏まえつつ、東静岡地区全体の機能を最適化する観点で必要な機能の見直しを行う。
- ・特に、静岡市が整備する新アリーナとの相乗効果や、隣接するグランシップの有効利用などに留意する。

キ その他

- ・施設は、周囲の景観に配意しつつも、「意匠性」優先ではなく、「機能性」を重視する。
- ・現在の県立中央図書館（静岡市駿河区谷田）については、必要な調査や対策を実施した上で活用する。
- ・東静岡地区南口県有地については、新県立中央図書館の整備着手までの間、暫定的な利活用を検討する。

(2) 最適な事業手法・東静岡地区のまちづくり

①民間事業者等へのヒアリングの状況

ア 民間事業者の意見

- ・民間事業者に調査したところ、東静岡駅南口県有地には、民間投資のポテンシャルが一定程度あることを確認した。

- ・図書館の整備を前提として、マンションの需要に加え、静岡市が整備する新アリーナ（令和12年春完成予定）との相乗効果の観点から、ホテルや商業施設などの需要も想定される。
- ・また、東静岡駅南口県有地（2.43ヘクタール）の一体的な開発が望ましいとの意見が多くかった。

イ 静岡市の意見

- ・東静岡地区において、新しい知恵の連携が進む図書館の早期整備や、中部地域の拠点となる複合的な機能の確保などが望ましいとの意見があった。

②見直しの方向性

ア 基本的な考え方

- ・東静岡地区の整備にあたっては、静岡市が目指す将来像「文化・スポーツの感動体験と快適で安心できる暮らしを両立したまち」を実現するため、静岡市とのまちづくりの一体性を重視する。
- ・東静岡地区のポテンシャルや民間の柔軟な発想を活かすため、民間活力を最大限導入することを軸として、県の財政負担の軽減を目指す。
- ・東静岡駅南口県有地の価値を高め、民間投資を積極的に呼び込むため、県有地の一体的な活用（2.43ヘクタール）を基本とする。

イ 事業手法の方向性

- ・現在の図書館建設予定地（県有地東側：0.97ヘクタール）に限定せず、県有地西側部分（1.46ヘクタール）も含めて、最適な施設の配置や整備手法（例えばPPP／PFI、定期借地権方式による公募など）を検討する。
- ・その際、用途規制などの土地開発規制については、周辺環境に配慮しつつ、積極的な民間投資につながるよう、静岡市と十分に調整する。

5 今後のスケジュール

- ・県議会の意見等も踏まえながら、「見直しの方向性」に沿って、新県立中央図書館基本構想や基本計画などの見直しを進め、具体的な機能（仕様）や整備手法などを決定する。
- ・令和10年代中頃～後半の開館を目指す。

(参考) 現計画との比較

区分	現計画	見直しの方向性
建設地	東静岡駅南口県有地 東側 (0.97ha)	県有地全体 (2.43ha) で 最適な配置を検討
施設規模	19, 800 m ²	縮小
整備手法	県直営方式	民間活力の導入を軸として 最適な整備手法を検討 〔 P P P / P F I 、 定期借地による公募など 〕
事業費	298億円	削減
開館時期	令和10年度	令和10年代中頃～後半
デジタル 技術の活用	利便性向上 ほか (I C タグなど)	積極的に導入 (電子書籍など)
市町立 図書館との 役割分担	指導・助言、 職員研修 ほか	機能重複しないよう見直し 図書館ネットワークを強化
収蔵能力	200万冊	150万冊程度を上限
蔵書の 保管方法	一体保管	書庫の分散化を含めて 最適な手法を選択
新たな交流と 価値の創出	セミナールーム カフェ、ラボ ほか	東静岡地区全体の機能を 最適化する観点から見直し